

亀田医療大学

2013（平成25）年度年報

KAMEDA COLLEGE OF HEALTH SCIENCES

はじめに

平成 24 年 4 月に、開学した亀田医療大学は 2 年目を無事完了することができました。本学をここまで継続するために御支援・御協力して頂いた地方自治体、市民、そして企業・病院の方々に心から御礼を申し上げます。

おかげさまで、学生の数も倍増し、今年度 2 年生を迎えた 1 期生は、専門科目の勉強も本格的となり、後期には、基礎看護学の臨地実習も始まりました。今回の実習は、本学の学生にとって、初めて対象者に向き合う経験であり、教員も学生も大変緊張致しましたが、実習施設の臨床指導者や看護師さんたちの御協力と励ましで、とても有意義な経験をすることができ、中には、「大変素晴らしいケアを受けた。」といった、患者様からのうれしいお言葉も頂きました。また 2 期生である今年の 1 年生にとっては、「先輩がいる」キャンパスの中で、昨年よりも更に元気あふれたクラブ活動やキャンパスの雰囲気が見られました。おかげさまで、11 月の大学祭には、悪天候にもかかわらず、各クラブ活動主催の模擬店を始め、地域の方から寄贈された物品のバザーや教員による公開講座などでにぎわいました。

また今年度のオープンキャンパスにおいては、キャンパスと実習病院の見学を組み込んだものや、保護者のためのオープンキャンパスなど、色々の工夫を取り入れ、多くの高校生や保護者を迎えることができました。

また今年度は、教員の数も倍増し、先生方には、新しい科目の準備と教鞭、そして学生の指導などに熱心に関わって頂く一方で、銘々の分野における興味深い研究や、科研費の取得、学位論文の修了及び原著論文の出版も多くみられたことは、新設の大学として、大変誇りに思っております。

キャンパスの設備としましては、「commons 鉄蕉館」（学生会館）の設立により、ミズキホールにおける公開講座の開講も可能となり、本学が地域の人々に今まで以上に親しまれるようになりました。またその 1 階には、地域の「お母さんたち有志」の御協力により、「亀ママキッチン」が設立され、そこで、学生や教職員が毎日の昼食に舌鼓をしております。

こうして、本学は、開学 2 年目を無事に終了し、今後入学して来る学生や、本学でキャリアを続けていく教職員のために、大学の歴史の基礎をしっかりと固めようと努力しております。今後とも皆様の厚い御支援と御協力をお願い致します。

亀田医療大学学長　クローズ幸子

目次

1. 沿革	P.1
2. 大学の理念	P.3
3. 組織・機構	P.4
4. 学内行事の概要	P.5
5. 教育活動	P.6
6. 研究活動・社会貢献	P.11
7. 入学者選抜	P.32
8. 学生関係	P.34
9. 図書館	P.37
10. 保健室	P.41
11. 管理運営	P.47
12. 財務	P.90
13. 教職員名簿	P.98

1. 沿革

平成 21 年	10 月 1 日	学校法人鉄蕉館に大学開設準備室を設置
	11 月 16 日	鴨川市に学校跡地活用地域住民説明会の実施
平成 22 年	2 月 26 日	亀田医療大学設立を応援する会発足
	3 月 24 日	鴨川市議会において土地、建物の無償貸付を可決
	3 月 30 日	房総地域 20 市町村長による千葉県知事に看護系大学の設置に対する財政支援等に関する要望書を提出
	4 月 18 日	地域における医療者育成を考えるシンポジウム 『目指せ 健康長寿 日本一』開催
	5 月 19 日	亀田医療大学（看護学部看護学科）設置のための寄付金募集活動についての寄附行為の変更認可（千葉県知事）
平成 23 年	7 月 1 日・2 日	大学校舎建設に伴い大学近隣地域住民に各戸訪問し説明
	3 月 31 日	亀田医療大学設置認可申請、学校法人鉄蕉館寄附行為変更認可申請について千葉県知事に進達依頼（文部科学大臣）
	5 月 10 日	亀田医療大学校舎建築工事安全祈願祭
	5 月 16 日	校舎等工事着工
	7 月 22 日	看護師学校等指定申請について千葉県知事に進達依頼（文部科学大臣）
	7 月 29 日	学校法人分科会面接審査（文部科学省）
	8 月 22 日	大学設置分科会実地審査
	9 月 12 日	学校法人分科会実地調査
	10 月 24 日	亀田医療大学設置認可、大学設置及び法人所在地変更等の寄附行為変更認可（文部科学大臣）
	10 月 31 日	亀田医療大学看護学部看護学科の看護師学校の指定（平成 24 年 4 月 1 日付け）を受ける（文部科学大臣）
	11 月 9 日	大学設置認可に際し大学近隣地域住民に各戸訪問し資料配布
平成 24 年	3 月 8 日	亀田医療大学校舎建築工事竣工式
	3 月 25 日	亀田医療大学開学記念式典・セレモニー
	4 月 1 日	亀田医療大学看護学部看護学科開学
	4 月 5 日	平成 24 年度亀田医療大学入学式（第 1 期生 85 名）
平成 25 年	4 月 1 日	亀田医療大学総合研究所 開設
	4 月 4 日	平成 25 年度亀田医療大学入学式（第 2 期生 79 名）

4月12日 亀ママキッチン（学生食堂）オープン
5月11日 亀田医療大学学生会館竣工記念式典・記念行事
7月1日 亀田医療大学生涯学習センター 開設
鴨川市と亀田医療大学との相互連携に係る協定書 締結

2. 大学の理念

1) 大学設置の背景

世界に例を見ない長寿社会を迎えた我が国では、保健・医療・福祉に対する需要は今後さらに多様化していくことが予測される。そのため、高齢化、生活習慣病や慢性疾患を持つ人口の増加、高度医療技術の発達、高度医療を受ける場での人権尊重の必要性など、今日におけるヘルスケアを取り巻く環境の大きな変化に対応できる、教養豊かで実践能力をもつ看護師を始めとする医療者専門教育機関が強く求められている。

実際、本学が位置する千葉県安房二次医療圏（館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町）における 65 歳以上の人口は既に 30%を超えており、今後はさらに増加することが見込まれ、地域の医療機関において、こうした高齢化に対応できる看護師の不足は深刻な問題となっている。こうした状況を鑑み、千葉県中・南部の看護師育成のニーズアセスメントを実施した結果、南房総地区における看護の学士課程教育機関の設立は、不可欠な動きであることが実証された。

2) 本学の理念

亀田医療大学は、社会・地域からの医療者教育の要請に応えるため、社会に必要とされる保健医療福祉分野の学術発信拠点として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開できる専門職者の育成を目指している。

本学の理念を「HEART」に集約して表現する。すべての学生が、この理念に集約された特性を持つ教養豊かな社会人、そして医療人として育つことをねらいとするものである。

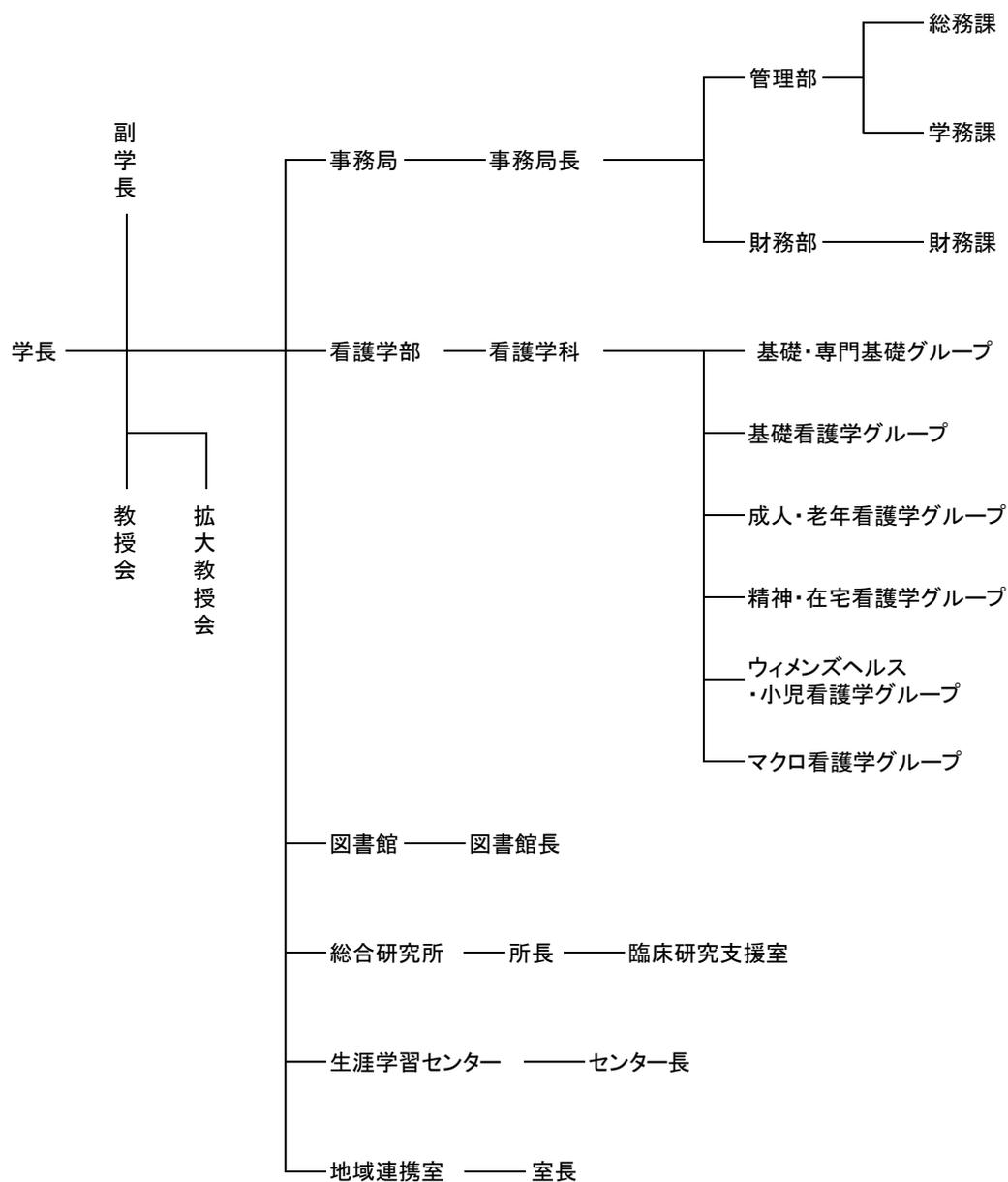
- H : Humanity (人間への愛と尊厳)
- E : Empowerment (動機付け、個人に内在する力の向上)
- A : Autonomy (自律性と専門性)
- R : Reason (理性)
- T : Team (チーム医療)

「HEART」が意味するものは、学生が幅広く豊かな教養を身に付け、21 世紀を担う一市民として成長し、医療人として、人間への愛と尊厳をもって人々の健康に注目して対象者やその家族に寄り添い、精神的状況や生活環境などを包括的に把握して全人的にサポートする能力を培うことを目指している。また学生が倫理的、理性的に考える力、高い専門性と自律性を持って行動できる看護実践者として育成されていくこと、そして、益々多様化している今日の保健・医療・福祉サービスの中で、対象者を中心とした質の高い医療を提供するために多職種と協働するチームケアの基本を学ぶことも目指している。亀田医療大学はこうした看護師を育成することが使命であるとともに、社会への貢献のひとつであると考えている。

3. 組織・機構

平成26年3月31日現在

亀田医療大学組織図



4. 学内行事の概要

1) 学年暦・大学行事

項 目		期 日	
		1 年 生	2 年 生
入 学 式		4 月 4 日 (木)	—
前 期	オリエンテーション ガイダンス	4 月 5 日 (金)	
	授 業 開 始	4 月 8 日 (月)	
	履 修 登 録 期 間	4 月 8 日 (月) ~ 4 月 12 日 (金)	
	履 修 登 録 確 認 期 間	4 月 15 日 (月) ~ 4 月 19 日 (金)	
	創 立 記 念 日	5 月 2 日 (木)	
	前 期 中 間 定 期 試 験	6 月 14 日 (金)	
	前 期 定 期 試 験	7 月 29 日 (月) ~ 7 月 31 日 (水)	
	夏 期 休 業	自 8 月 1 日 (木) 至 9 月 30 日 (月)	自 8 月 1 日 (木) 至 9 月 29 日 (日)
	前 期 終 了	9 月 30 日 (月)	9 月 29 日 (日)
後 期	後 学 期 授 業 開 始	10 月 1 日 (火)	9 月 30 日 (月)
	履 修 登 録 期 間	10 月 1 日 (火) ~ 10 月 4 日 (金)	10 月 21 日 (月) ~ 10 月 25 日 (金)
	履 修 登 録 確 認 期 間	10 月 7 日 (月) ~ 10 月 11 日 (金)	10 月 28 日 (月) ~ 11 月 1 日 (金)
	大 学 祭	11 月 2 日 (土) ~ 11 月 3 日 (日)	
	後 期 中 間 定 期 試 験	11 月 29 日 (金)	12 月 20 日 (金)
	冬 期 休 業	自 12 月 24 日 (火) 至 1 月 5 日 (日)	
	後 期 定 期 試 験	2 月 17 日 (月) ~ 2 月 19 日 (水)	
卒 業 式		—	
春 期 休 業		自 3 月 1 日 (土) 至 3 月 31 日 (月)	

5. 教育活動

1) 教育活動

平成 25 年度は 79 名の 2 期生を迎え、1 年前期と後期に渡って、主に看護学の基礎、リベラルエデュケーション及び専門基礎科目を提供した。今年 2 年生になった 1 期生には、専門基礎科目（人間病態学—感染と免疫、医療安全、臨床薬理学や栄養・生化学）を提供すると同時に、専門分野 I における基礎看護学の講義や 3 週間にわたる初めての臨地実習、さらに専門分野 II における諸科目の概論を提供した。各科目終了時には、1 年及び 2 年生に提供した全科目において、「学生による授業評価」を実施した。

2) 授業科目の開設

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			(選 択 科 目)	履 修 者 数	担 当 教 員 名 (代 表 者 名)
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習			
リ ベ ラ ル ・ エ デ ュ ケ ー シ ヨ ン	コミュニケーション・ 人間関係論	1 前	1					○		中村 千賀子	
	情報科学	1 前	1					○		岩澤 由子	
	文化人類学	1 後	1					○		工藤 由美	
	ナラティブ表現法	1 後	1					○		宮本 眞巳・ 足立 智孝	
	生命倫理学	2 後	1					○		足立 智孝	
	医療人文学	1 前		1				○	57	足立 智孝	
	哲学	1 後		1				○	44	高梨 俊毅	
	心理学	1 後		1				○	77	富安 哲也	
	倫理学	1 後		1				○	57	足立 智孝	
	音楽鑑賞	1 後		1				○	45	山崎 綾子	
	オルタナティブ セラピー	1 通		1				○	63	高橋 文子・ 大倉 葉子	
	生涯教育論	2 後		1				○	27	高梨 俊毅	
外 国 語	English I (日常会話— 初級)	1 前	2					○		James Kelly・ Rodney Moore	
	English II (日常会話— 中級)	1 後	2					○		James Kelly	

リベラル・エデュケーション	外国語	中国語Ⅰ(日常会話―初級)	1前	1		○		64	張 玉菡
		中国語Ⅱ(日常会話―中級)	1後	1		○		58	張 玉菡
		EnglishⅢ(日常会話―一般)	2後	1		○		18	大山 中勝
		看護英語	2前	1		○		41	大山 中勝
	環境	家族社会学	1後	1		○			米林 喜男
		社会福祉学	1後	1		○		57	村上 信
		医療安全	2前	1		○			渡邊 八重子・ 休波 茂子
		社会学	1前	1		○		30	米林 喜男
		経済学	1前	1		○		45	黒木 祥弘
		国際理解と国際貢献	1前	1		○			工藤 由美・ 米林 喜男・ 水野 左敏
		南房総の歴史と未来	2後	1		○		21	古市 一雄
	健康科学Ⅰ	化学	1前	1		○			水野 左敏
		統計学	1前	1		○		59	片多 史明
		セルフヘルス プロモーション	1前	1		○			村永 信吾
		生物学	1前	1		○			鈴木 康宣
		物理学	1前	1		○		9	大野 直次
		体育	1通	1			○	55	大澤 有美子・ 宮本 瑠美
	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ (アーリーイクスプロージャー)	1前	1		○			深谷 智恵子
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1		○			深谷 智恵子
		基礎ゼミナールⅢ	2前	1		○			吉川 一枝
小計(34科目)		—	18	18	0	—			
	発達心理学	1後	2		○			平原 憲道	
	疫学	2後	1		○			水野 左敏	

基礎専門分野	健康科学Ⅱ	保健統計	2後	1			○			水野 左敏
		健康支援と社会保障制度	2後	2			○			米林 喜男
		人間機能学(形態と機能)	1後	4			○			河野 俊彦・ 大石 昌也
		人間病態学Ⅰ(病気の成り立ち)	1後	3			○			大石 昌也
		人間病態学Ⅱ(感染と免疫学)	2前	3			○			細川 直登・ 大塚 喜人・ 大石 昌也
		栄養・生化学	2後	2			○			鈴木 勝彦
		臨床薬理学Ⅰ(基礎)	2前	2			○			佐々木 忠徳・ 舛田 浩司・ 鈴木 正論
		小計(9科目)	—	20	0	0	—			
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1前	2			○			休波 茂子
		基礎看護技術論	1後	1			○			休波 茂子
		日常生活援助論	2前	2				○		佐久間 夕美子・ 休波 茂子・ 有家 香・ 鶴沢 淳子
		治療援助論	2前	1				○		鶴沢 淳子・ 休波 茂子・ 佐久間 夕美子・ 有家 香
		看護展開論Ⅰ(ナーシングプロセス)	2前	2			○			休波 茂子・ 渡邊 八重子
		看護展開論Ⅱ(ヘルスアセスメント)	2前	2				○		休波 茂子・ クローズ 幸子・ 佐久間 夕美子・ 渡邊 八重子・ 有家 香・ 鶴沢 淳子
		基礎看護学臨地実習	2後	3					○	休波 茂子

	小計(7科目)	—	13	0	0	—			
専門分野Ⅱ	ライフスパン看護学	成人看護学概論	2後	2			○		小幡 光子
		慢性期成人看護援助論	2後	2				○	真野 響子・ 高橋 道明
		高齢者看護学概論	2後	2			○		新田 静江・ 新居 富士美
		高齢者看護援助論	2後	2				○	新居 富士美・ 小林 美奈子
		精神保健看護学概論	2後	2			○		太田 知子
	小児保健看護学・実習 ウイメンズヘルス	ウイメンズヘルス看護学概論	2後	2			○		恵美須 文枝
		小児保健看護学概論	2後	2			○		吉川 一枝
	小計(7科目)	—	14	0	0	—			
統合分野	看護学マクロ	看護の統合と実践Ⅰ(序論)	1前	1			○		宮本 真巳
		小計(1科目)	—	1	0	0	—		
合計(58科目)		—	66	18	0	—			

3) 授業改善の取組

(1) 教務関連

平成 25 年度は、特に学生委員会によって検討されたチューター制を活用し、学生の学業に対する支援を行った。また、授業評価や学生の意見を参考にしながら、教員に授業改善を求めた。平成 26 年度の課題を以下に示す。

平成 26 年度の課題

1. 円滑な講義・演習・実験の実施
2. 学生の単位修得への指導と支援
特に単位未修得の学生への指導と支援
3. 非常勤講師による円滑な授業実施への支援
4. 学生の主体的な授業参加への支援（授業態度の育成）
5. 進級への支援（2年次進級判定）
6. 非常勤講師オリエンテーション（説明及び交流会）の開催の検討
7. 休学者（復学した）への学習支援

(2) カリキュラム関連

カリキュラムについては、学生への教育効果から検討した結果、一部変更を文科省に申請し、そのカリキュラムの評価を行うこととした。AC 期間を終えるまでは、現行のカリキュラムの評価を適切に行い、課題を明確にしたうえで改善に向けて準備することとした。

1. 現行のカリキュラムの評価
2. 平成 26 年度カリキュラムの変更に伴う評価
3. 研究ゼミナール I・II の方法と評価について検討

6. 研究活動・社会貢献

クローズ 幸子

学会発表

- ・クローズ幸子、2013年11月4日、米国の看護提供体制：多職種とチームを組んだ働き方、平成25年度日本看護管理学会例会 in 徳島、(徳島市四国大学交流プラザ)

学会の役職

- ・一般社団法人日本看護系大学協議会高度実践看護師制度推進委員会 委員

研究助成及び研究活動報告

- ・平成25年度文部科学省科学研究費助成事業(基盤研究C)研究課題番号25463354、看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価、渡邊八重子(研究代表者)、休波茂子(研究分担者)、クローズ幸子(研究分担者)、手島恵(研究分担者)

研究活動報告：

25年度に採択されたこのプロジェクトの1年目の活動はコンサルタントおよび関連学会から情報収集をすることであったため、医療安全・質向上に関する米国での学会(QSEN)に出席し、米国の第一人者であるコンサルタントから情報を収集し報告書を研究代表者と共にまとめ、研究グループと大学に報告した。

社会貢献

- ・千葉大学「臨床判断とフィジカルアセスメント」講師(5.5時間)
- ・日本看護系大学協議会NP教育課程モデル作成委員会 委員
- ・鴨川市体育協会 顧問
- ・亀田総合病院看護部 顧問

恵美須 文枝

原著論文

- ・天野道代、恵美須文枝、志村千鶴子、岡田由香、2013年7月、キャリア途上にある女性の予期せぬ妊娠から出産に臨むまでの体験、母性衛生第54巻2号、P.354～P.365
- ・谷口千絵、木下千鶴、斉藤有希江、安藤広子、恵美須文枝、高田昌代、和田雅樹、田村正徳、2013年12月、デルファイ法による新生児蘇生法インストラクターのコンピテンシー、日本助産学会誌 第27巻2号、P.214～P.225

学会発表

- ・中村茉菜、神谷摂子、恵美須文枝、2014年3月、臨床助産師が捉えた在日ブラジル人妊産婦の特徴(第1報)、第28回日本助産学会学術集会(於;長崎) P.144
- ・中村茉菜、神谷摂子、恵美須文枝、2014年3月、臨床助産師が捉えた在日ブラジル

人妊産婦の特徴（第2報）—助産ケアに注目して—、第28回日本助産学会学術集会（於；長崎）、P.145

- ・池田真弓、木村千里、鈴木享子、園部真美、渡邊千佳子、坂田清美、安達久美子、惠美須文枝、2014年3月、地域・行政・大学の協働による子育て支援の実践、第28回日本助産学会学術集会（於；長崎）、P.184
- ・金澤貴子、久保幸代、高橋浩美、潮田千寿子、狩野千賀子、惠美須文枝、2014年3月、助産師学生の臨地実習における母乳育児支援の学習過程、第28回日本助産学会学術集会（於；長崎）、P.116
- ・金澤貴子、惠美須文枝、久保幸代、潮田千寿子、高橋浩美、鹿野千賀子、2013年10月、助産師学生の母乳育児支援に関する実践、第16回日本保健科学学会学術集会（於；東京）P.19
- ・藪押晶子、惠美須文枝、伊藤かおる、古谷ひとみ、2013年10月、経産婦の妊娠中及び出産後の排尿状態に関する研究、第54回日本母性衛生学会学術集会（於；大宮）、P.198
- ・神谷摂子、志村千鶴子、大林陽子、緒方京、中田恵美、惠美須文枝、2013年10月、大学院での乳児継続事例実習の取り組みと学習効果、第54回日本母性衛生学会学術集会（於；大宮）、P.309

学会等の役職

- ・日本思春期学会 評議員
- ・日本看護学教育学会 専任査読員
- ・日本保健科学学会 評議員
- ・日本助産評価機構 事務局長

研究助成及び研究活動報告

- ・平成25年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）課題番号25463527、10代女性の周産期を中心とした育児支援システムの構築、小川久貴子（研究代表者）、惠美須文枝（共同研究者）、安達久美子、白井千晶、竹内道子、井上友里、田幡純子、金澤貴子、森朋子
- ・平成25年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）課題番号25463353、看護大学と臨床における労働時間の「等価交換」による連携・協同システムの構築、久保幸代（研究代表者）、栗栖千幸、惠美須文枝（共同研究者）、金澤貴子、熊沢美奈好、潮田千寿子、高橋浩美、前田弘美、影山ユウ子、石川健二
- ・平成25年度亀田医療大学学長裁量特別研究費、OLSOコース開催に向けての調査研究、金澤貴子（代表者）、久保幸代、惠美須文枝（共同研究者）

社会貢献

- ・全国助産師教育協議会研究研修センター運営委員会 委員
- ・荒川区 顧問

- ・子育てボランティア団体「さんごサポネット in 荒川」 主宰

小幡 光子

学会発表

- ・「二次救急医療施設の救急初療における看護ケアの分析」
第 39 回日本看護研究学会（秋田）2013 年 8 月 22 日
共著：西村聖子 吉田和枝 小幡光子

学会等の役職

- ・日本看護科学学会 選挙管理委員会委員
- ・日本看護研究学会 査読委員

研究助成及び研究活動報告書

- ・平成 22 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤 C）課題番号 22592441
ICU 病棟におけるクリティカルケア看護のエスノグラフィー
小幡光子（研究代表者）

社会貢献

- ・青森県立保健大学大学院博士前期課程非常勤講師
「クリティカルケア特論」（7 コマ：14 時間）
- ・同 研究審査委員会委員(副査)
- ・日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会
クリティカルケア看護専門分科会委員
- ・日本看護系大学協議会 看護の質向上委員会委員

吉川 一枝

原著論文等

- ・藤生君江、中野照代、安藤邑恵、山田小夜子、吉川一枝、2014 年 3 月、医療系大学生の相互依存様式に対する意識—看護学科、臨床検査学科、放射線技術学科の比較一、岐阜医療科学大学紀要第 8 号、P.87～98

社会貢献

- ・講演 「乳幼児の発達と子どもの事故防止について」
千葉県保育協議会安房支会（鴨川市）
平成 25 年 11 月 9 日

新田 静江

著書

- ・新田静江、菅沼真弓、布村明彦、平成 25 年 11 月、入浴拒否が強い患者さんに入浴を促す有効な方法はありませんか?「治療」特別編集:認知症でお困りですか? 南山堂、

P.229 (P.173～176).

原著論文等

- ・ 神田藍、新田静江、平成 25 年 3 月、膀胱留置カテーテル用バッグへの活性炭固定の不織布シートの消臭効果：客観的測定と主観的測定の関連、泌尿器ケア、18 (3)、P.106～111.

学会発表

- ・ 淵田英津子、新田静江、平成 25 年 5 月、介護老人福祉施設と介護老人保健施設における BPSD の出現実態、第 14 回日本認知症ケア学会 (東京).
- ・ 淵田英津子、新田静江、平成 25 年 6 月、介護施設における認知症の行動・心理症状のケア指針 (Ver.3)の課題：ケア職員へのインタビューの結果から、日本老年看護学会第 18 回学術集会 (大阪).
- ・ 菅沼真由美、新田静江、平成 25 年 12 月、認知症高齢者の家族介護者の性別・続柄別家族介護者間交流プログラムの効果、第 33 回日本看護科学学会学術集会 (大阪).

学会等の役職

- ・ 日本看護科学学会、専任査読委員

研究助成及び研究活動報告

- ・ 千葉県多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業助成、急性期病院に就業する医師および看護師における訪問看護との連携の現状、新田静江 (研究代表者)、三河貴裕 (研究分担者)、栗栖千幸 (研究分担者).

社会貢献

- ・ 名古屋市立大学看護学研究科修士課程、「理論看護学」非常勤講師 (12 時間)
- ・ 山梨大学医学部看護学科「高齢者看護学Ⅱ」非常勤講師 (4 時間)
- ・ 山梨大学医学部看護学科「在宅看護論」非常勤講師 (4 時間)
- ・ 平成 25 年度山梨県高齢者権利擁護等推進員養成講座 講師 (山梨・笛吹・甲州地区)、平成 25 年 7 月&10 月
- ・ 平成 25 年度山梨県高齢者権利擁護等推進員養成講座 講師 (南アルプス・中央・中巨摩地区)、平成 25 年 9 月&11 月
- ・ 鴨川市叙勲者協会 高齢者向け健康講演「己の命を生き抜くための準備」講師、平成 25 年 10 月
- ・ 平成 25 年度高齢者権利擁護等事例検討会 講師、平成 25 年 12 月
- ・ 第 4 回鴨川市通所サービス事業所連絡協議会講義 講師「認知症と精神疾患の違いを学ぶ」講師、平成 25 年 12 月
- ・ 山梨県高齢者権利擁護等推進部会 部会長
- ・ 鴨川地域医療連携会議委員
- ・ 亀田総合病院地域連携室会議委員

深谷 智恵子

学会等の役職

- ・日本循環器看護学会 監事および学会誌査読員
- ・日本クリティカルケア看護学会 評議員および学会誌査読員
- ・日本救急看護学会 学会誌査読員

社会貢献

- ・和歌山県立医科大学大学院 「急性看護学特論」 非常勤講師
- ・神奈川県立保健福祉大学 「集中ケア認定看護師看護概論」 非常勤講師

宮本 眞巳

原著論文等

- ・宮本眞巳、2013年11月、心の包括的ケアに向けて一ケースメソッドを媒介に一、日本精神保健看護学会誌、22(2)、P.117～123
- ・宮本眞巳、2013年9月、精神療法と管理面接、アディクションと家族（日本嗜癮行動学会誌）、29(3)、P.196～203
- ・宮本眞巳、2013年8月、看護場面の再構成による臨床指導(6)看護基礎教育における異和感の対自化と自己一致の教育について、精神科看護、40(8)、P. 61～66
- ・津田哲也、川喜田晶子、宮本眞巳、2013年7月、“ゆだねる”境地に開かれて一山谷地域における訪問看護師の体験が照射する看護の本質一、精神科看護、40(7)、P.48～57
- ・宮本眞巳、2013年7月、異和感の対自化と感情活用一心と身体の包括的ケアに向けて一、精神看護、16(4)、P.74～83
- ・美濃由紀子、宮本眞巳、2013年6月、司法精神医療における治療共同体の理念に基づく多職種チーム医療一精神科医療への還元の試み一、日本精神科看護学術集会誌、56(2)、P.34～38
- ・西池絵衣子、三宅美智、末安民生、吉浜文洋、吉川隆博、美濃由紀子、宮本眞巳、2013年6月、日本精神科看護技術協会、全国の精神科病床を有する施設における行動制限最小化委員会の実態に関する調査一運営の在り方と看護職の役割一、日本精神科看護学術集会誌、56(2)、P.266～270
- ・宮本眞巳、2013年6月、巻頭言一精神看護学は看護学のなかでどのような位置をしめるのか?、日本精神保健看護学会誌、22(1)、P.1
- ・島袋美紀、宮本眞巳、2013年6月、看護場面の再構成による臨床指導(4)疑問の投げ返しとしての自己一致、精神科看護、40(6)、P.58～64
- ・松浦佳代、宮本眞巳、2013年6月、中学校における精神疾患教育の困難性に関する研究一養護教諭への半構造的面接より一、精神科看護、40(6)、P.46～57

- ・ 円城寺倫子、美濃由紀子、宮本眞巳、2013年5月、看護場面の再構成による臨床指導(3)アルコール依存症患者とのかかわりの再検討—違和感の対自化を用いて—、精神科看護、40(5)、P.53～60
- ・ 正村帆南、渡邊敦子、宮本眞巳、2013年4月、看護場面の再構成による臨床指導(2)学生が精神看護学実習に求める教育方法の検討—学生グループによる意見交換を通して—、精神科看護、40(4)、P.60～67
- ・ 宮本眞巳、2013年4月、感情労働の視点から見た処遇者のストレス対処—自己一致と感情活用—、更生保護、64(4)、P.28～31

学会発表

- ・ 美濃由紀子、長谷川陽子、河合美知子、塩田久美子、三井督子、乙黒仁美、高橋直美、津田右子、岡村典子、米山奈奈子、宮本眞巳、2013年12月、事例検討会への理解度・満足度の傾向と臨床への応用性—第1報—、第33回日本看護科学学会学術集会（大阪）
- ・ 美濃由紀子、河合美知子、塩田久美子、三井督子、長谷川陽子、乙黒仁美、高橋直美、津田右子、岡村典子、米山奈奈子、宮本眞巳、2013年12月、事例検討会への参加動機と参加回数による動機の傾向—第2報—、第33回日本看護科学学会学術集会（大阪）
- ・ 池田湖依、宮本眞巳、美濃由紀子、2013年12月、精神科デイケア利用者の就労意欲を支える要因、第33回日本看護科学学会学術集会（大阪）
- ・ 美濃由紀子、宮本眞巳、2013年8月、司法精神医療における治療共同体の理念に基づく多職種チーム医療—精神科医療への還元の試み—、第20回日本精神科看護学術集会専門I（群馬）
- ・ 西池絵衣子、三宅美智、末安民生、吉浜文洋、吉川隆博、美濃由紀子、宮本眞巳、2013年8月、全国の精神科病床を有する施設における行動制限最小化委員会の実態に関する調査—運営の在り方と看護職の役割—、第20回日本精神科看護学術集会専門I（群馬）

学会等の役職

- ・ 日本精神保健看護学会 理事
- ・ 日本アクション看護学会 顧問
- ・ 日本保健医療行動科学学会 理事
- ・ 日本家族と子どもセラピスト学会 理事
- ・ 日本保健医療社会学会 評議員

研究助成及び研究活動報告

- ・ 厚生科学研究障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「医療観察法の向上と関係機関の連携に関する研究」、分担課題「職種連携による医療の充実に向けた組織強化とスタッフ教育に関する研究」、宮本眞巳（分担研究代表者）、美濃由紀子（研

究分担者)、高橋直美(研究分担者)、熊地美枝(研究分担者)

社会貢献

1. 他大学講師

- ・東京医科歯科大学「地域精神看護学」講師(2時間)
- ・東京医科歯科大学大学院「精神保健看護学特論」講師(8時間)、「がん看護学特論」講師(4時間)、「保健医療情報学」講師(4時間)
- ・淑徳大学「精神看護学」講師(2時間)

2. 講演

- ・「看護師はどのような専門職か」、千葉県立君津高校(君津)、2013年12月
- ・「感情的って悪いこと?—適切な感情表現に向けて—」、亀田医療大学大学祭(鴨川)、2013年11月
- ・「心にはどういう働きがあるか?」、亀田医療大学オープンキャンパス(鴨川)、2013年7月
- ・「事例検討の方法について」、虎の門病院(東京)、2013年5月
- ・「意思の病は治らないのか?」、薬物依存症患者家族会(四谷)、2013年4月

3. 外部委員

- ・日本精神科看護技術学会、認定看護師認定委員(司法精神看護担当)、2006年4月～
- ・ダルク女性ハウス(薬物依存症者リハビリテーション施設)運営委員、1996年4月～
- ・千葉県立長狭高校学校運営協議会委員、2013年4月～
- ・社会福祉法人恵友会(精神障害者社会復帰支援事業所)理事、2004年4月～2014年3月

休波 茂子

原著論文等

- ・小林順子、山本美紀、休波茂子、2014年3月、インシデントを経験した看護職者の安全学習に関連する要因、日本看護研究学会雑誌、36(5)、P.57～66、

学会発表

- ・吉田理恵、山本美紀、山口佳子、休波茂子、2013年6月22日、リスクマネージャーが認識する新人看護師のリスク感性、第14回日本赤十字看護学会学術集会(秋田市)
- ・臼井綾子、休波茂子、2013年7月22日、看護師の意識障害患者への関わりに関する文献検討、第39回日本看護研究学会雑誌(秋田市)
- ・休波茂子、2013年12月7日、認定看護師による感染管理の専門的実践と影響および特徴、第33回日本看護科学学会学術集会(大阪府)
- ・吉田理恵、山本美紀、山口佳子、休波茂子、2013年12月7日、新人看護師のインシ

- デントに至るプロセスの分析、第 33 回日本看護科学学会学術集会（大阪府）
- ・山口佳子、山本美紀、吉田理恵、休波茂子、2013 年 12 月 7 日、新人看護師の与薬に関するインシデントの行動特性、第 33 回日本看護科学学会学術集会（大阪府）

学会等の役職

- ・特定非営利活動法人日本臨床美術協会 理事

研究助成及び研究活動報告

- ・平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 25463354、看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価、渡邊八重子（研究代表者）、手島恵（研究分担者）、クローズ幸子（研究分担者）、休波茂子（研究分担者）

社会貢献

- ・亀田総合病院 講師（12 時間）
レベル 1 研修『看護診断 I』 平成 25 年 5 月 24 日、5 月 27 日
- ・公立昭和病院、講師（8 時間）
『看護診断』研修会講師 平成 25 年 5 月 10 日、平成 26 年 2 月 28 日

米林 喜男

著書

- ・山手茂、米林喜男、須田木綿子、2013 年 8 月、園田保健社会学の形成と展開、東信堂、P.304
米林喜男、園田先生の研究・教育業績の外観、P.3～9
米林喜男、園田先生と新潟医療福祉大学、P.56～71
米林喜男、社会医学から保健社会学へ、P.75～83
米林喜男、園田先生と歯科医療、P.267～271
米林喜男ほか、まえがき i～iii、あとがき、P.297～298

原著論文等

- ・米林喜男、2013 年 10 月、社会学徒松島如戒氏の実践、見事に実を結ぶ、特定非営利活動法人りすシステム、生前契約 20 周年記念誌、P.87～89

学会表等

- ・米林喜男、平成 25 年 12 月、地域自立生活支援のあり方・システムと専門職連携の鼎談

学会等の役職

- ・日本保健医療社会学会 監事
- ・日本保健医療社会学会 渉外委員会アドバイザー
- ・白山社会学会 副会長

社会貢献

- ・もやいの会 運営委員会
- ・千葉県鴨川市健康づくり推進協議会 委員・会長
- ・千葉県鴨川市医療・介護・保健・福祉・司法・教育等専門職セミナー（亀田医療大学）、平成 25 年 12 月 講師
- ・第一生命財団 理事
- ・新潟医療福祉大学健康科学部看護学科 講師
- ・亀田医療技術専門学校助産学科・看護学科 講師

東 晴美

著書

- ・東晴美、高内正子編著、2013 年 3 刷、心とからだを育む 子どもの保健 I 3 章 2 節、保育出版社、P.194 (P.33～34)

原著論文等

- ・東晴美、毛利育子、下野九理子、奥野裕子、橘雅弥、和田和子、谷池雅子、2013 年 6 月、自閉症スペクトラム障害と診断された小児の周産期の危険因子、日本未熟児新生児学会誌、25、P.177～189

研究助成及び研究活動報告

- ・平成 26 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 26381336、NICU 環境が超早産児に及ぼす影響をストレス評価しその後の発達障害との関連を探る、東晴美（研究代表者）

社会貢献

- ・「乳幼児の成長発達と子どもの事故防止」、千葉県保育協議会安房支部（亀田医療大学 第 3 講義室・多目的室）、2013 年 11 月 9 日

足立 智孝

著書

- ・足立智孝、2013 年 7 月、中国医学人文評論 2013、Liping Guo 責任編集、北京大学医学出版社、P.111 (P.51-60)（中国語翻訳）

翻訳書

- ・J. フェアプレツェ他編著、2013 年 9 月、モーラル・ブレイン、立木教夫・望月文明監訳、麗澤大学出版会、P. 396（翻訳担当 P. 97-119, P. 151-176）
- ・ハンク・ダン著、2013 年 10 月、終末期医療、いのちの終わりを受け容れる一愛する人への最期のケア、足立智孝監訳、河出書房新社、P. 192

原著論文等

- ・足立智孝、2013 年、ナラティブを用いた倫理教育アプローチ、看護人材教育、10 (4)、P2～10

- ・ Toshitaka Adachi, 2013.12, *Wit and Japanese Professionals: A Case Study in Adapting a Western Educational Resource for Use in a Non-Western Cultural Context*, *Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine*, **7**, P.18-37
- ・ 足立智孝、2014年3月、看護教育におけるリベラルアーツ—医療人文学の立場から、東京女子医科大学看護学会学会誌、9(1)、P.51~52

学会発表

- ・ 足立智孝、2013年10月、看護教育におけるリベラルアーツ—医療人文学の立場から、東京女子医科大学看護学会第9回学術大会（東京女子医科大学）

学会等の役職

- ・ 日本生命倫理学会 常務理事・事務局長、第25回年次大会実行委員会委員
- ・ 日本社会薬学会 幹事
- ・ 地球システム・倫理学会 評議員、編集委員会委員
- ・ 日本医学哲学倫理学会 国際学術交流委員会委員、2014国際大会実行委員会委員
- ・ 日本看護倫理学会 査読委員

研究助成及び研究活動報告

(1) 研究助成

- ・ 平成22年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究A）研究課題番号22242001、理論的基盤と臨床実践とを統合する新しい医療倫理学の方法論についての研究、宮坂道夫（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）、栗原隆（同）、細見博志（同）、中田光（同）、田澤立之（同）、酒井さゆり（同）、後藤清恵（同）、山内春夫（同）、甲斐克則（同）、鳥谷部真一（同）
- ・ 平成24年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B）研究課題番号24390482、看護師に対する倫理サポートのアクションリサーチ、小西恵美子（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）、八代利香（同）、山下早苗（同）、前田樹海（同）、鈴木真理子（同）、八尋道子（同）、持留里奈（同）
- ・ 早稲田大学人間総合研究センター・一般研究プロジェクト（平成25年度から27年度）研究課題名「高齢者主体の新しいアドバンス・ケア・プランニングの創出」土田友章（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）、辻内琢也（同）、扇原淳（同）、鶴若麻里（同）、横瀬利枝子（同）、角田ますみ（同）、大桃美穂（同）、日野智豪（同）、仙波由加里（同）

(2) 研究活動報告

上記に挙げた三つの研究プロジェクトに関わる研究を中心に行っている。具体的なテーマは各プロジェクトに対応し、それぞれ(1)倫理驚異の方法論的研究、(2)医療専門職および患者・家族への倫理的支援の研究、(3)終末期における倫理的意図決定の研究、である。

特に現在最も尽力して行っている研究は、上記第3点目のプロジェクトに係る(3)に関するものである。医療者主体で決定されがちな終末期に関する患者本人

の意向をどのように慮り、どのように反映することができるのかについて、各国の取り組みを文献レビューし、日本における展開可能性を探っている。この研究の成果を学会発表（日本生命倫理学会第 26 回年次大会）につなげられるように、準備を進めている。

社会貢献

- ・東京女子医科大学大学院看護学研究科「人間学」（21.25 時間）
- ・星薬科大学薬学部「医療倫理学」（15 時間）
- ・昭和薬科大学薬学部「ヒューマニズム：生と死を考える」（6 時間）
- ・千葉大学大学院看護学研究科「エンドオブライフケアと生命倫理」（6 時間）
- ・「医療現場における倫理を考える 2—いのちの最期をどう支えるか—」長野市民病院がん診療公開講座講演会（長野市民病院）2013 年 12 月
- ・「医療人文学への招待—その本質と愉しさ—」金沢大学保健学領域 FD 研修会（金沢大学）2014 年 2 月
- ・「オワりはじまり—医療のエンディングを考える」安房地域がん看護勉強会（安房地域医療センター）2013年9月
- ・「オワりはじまり—医療のエンディングを考える」ACP in AWA（城西国際大学安房キャンパス）2013年11月
- ・「オワりはじまり—医療のエンディングを考える」第4回OMC研究会（登米市民病院）2013年12月
- ・「オワりはじまり—医療のエンディングを考える」鴨川市高齢者福祉部会民生委員対象研修会（鴨川市ふれあいセンター）2014年2月
- ・医療法人鉄蕉会倫理問題検討委員会 委員
- ・医療法人鉄蕉会臨床研究審査委員会 委員
- ・*Encyclopedia of Global Bioethics* Member of International Editorial Board（国際編集委員会委員）

新居 富士美

原著論文等

- ・新居 富士美、宮下 涼、安部恭子、2013 年 10 月、若年性乳癌患者の外来化学療法期間における STAS-J を用いた疼痛の評価—患者の日記と看護記録からみた継続的アセスメントによる疼痛コントロールの実際—、日本医学看護学教育学会誌 **22**、p. 19-25.

研究報告

- ・大島 操、藤本明日香、新居 富士美、安部恭子、2014 年、一般診療所における看護師による糖尿病患者指導、日本医学看護学教育学会誌、**23**、印刷中

学会発表

- ・新居 富士美、Leibowitz よし子、若年性乳がんのケア(その 1) 1983 年～2013 年までの国内文献レビュー、日本ヒューマンケア科学学会誌 **7(1)**p36-37.2013 年 12 月、

日本ヒューマンケア科学学会第6回学術集会（青森県立保健大学）

- ・関永信子、新居 富士美、安部恭子、看護学生が抱く在宅看護のイメージ内容の分析-授業前の場合-、日本医学看護学教育学会抄録集 p.28. 2014年3月、第24回日本医学看護学教育学会学術学会（島根県、益田市）

社会貢献

- ・熊本 高齢者の抑制を考える会 監事

大石 昌也

学会研究発表等

- ・大石昌也、2014年2月26日、「一緒にコラボしませんか？ー生体ガスを中心にー」、平成25年度亀田医療大学研究交流会

学会等の役職

- ・日本未熟児新生児学会 評議員

研究助成及び研究活動報告

研究課題

1. 生体ガスの臨床応用（安定同位元素 ^{13}C 標識化合物、生体ガス H_2 , CO , NO , CH_4 等）
2. 非侵襲モニターの臨床活用
3. 周産期看護・小児看護教育教材の作成

真野 響子

著書

- ・安藤瑞穂、牛尾陽子、貝瀬友子、川口ちづる、藏谷範子、高野海哉、高橋明美、福永ひとみ、松本佳子、真野響子、安井大輔、山崎千寿子、山崎由美子、山根美保、2013年4月、2014年版 看護師国家試験問題 解答・解説 第102回看護師国家試験問題 解答・解説 メヂカルフレンド社、P136（午前 1、3、9、29、30、33、34、46、47、午後 12、24、31、39、44、74、78、83）
- ・藏谷範子、長尾嘉子、新居富士美、小林美奈子、佐藤真由美、高橋道明、真野響子、有田秀子、西池絵衣子、三宅美智、高橋明美、山崎由美子、福永ひとみ、川口ちづる、青柳美樹、2013年11月、頻出事項徹底マスター看護師国試2014 完全攻略BOOK 新出題基準対応、クリニカルカスタディ Vol. 34No. 13、メヂカルフレンド社、P128（P33 ～成人看護学出題基準の改定ポイントをチェック P34 成人の特徴と健康、P37 周術期の看護、P47～P48 消化・吸収機能障害 P49 栄養代謝機能障害、P50～51 内部環境調節機能障害、P53 身体防御機能障害、P61～P62 練習問題にチャレンジ 問題 3～8）
- ・編集協力 牛尾陽子、貝瀬友子、川口ちづる、藏谷範子、高橋明美、中山かおり、福永ひとみ、松本佳子、真野響子、山崎由美子、2013年4月、2014年版 看護師国

家試験問題 解答・解説 メヂカルフレンド社、本体 P1275(P1～271 人体の構造と機能、P111～189 疾病の成り立ちと回復の促進、P191～271 健康支援と社会保障制度、P450～731 成人看護学)

- ・監修 犬尾千聡、小川千登世、加藤貴康、木内典裕、北浜真理子、崎山快夫、関保、真野響子、村井保夫、2013 年 4 月、看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 5 成人看護 脳神経・運動器・血液・免疫、メディックメディア、P519 (P282～315 血液凝固・抗凝固薬、P316～347 輸血、P348～393 血液疾患・骨髄移植)
- ・監修 犬尾千聡、小川千登世、小田嶋晋、小野正恵、鈴木嗣敏、竹田佳子、法橋尚宏、真野響子 2013 年 4 月、看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 7 小児看護、メディックメディア、P445 (P238～287 白血病)
- ・監修 會田信子、浅沼晴美、荒瀬康司、池亀俊美、石村由利子、伊豆津宏二、糸井隆夫、大竹祐輔、大原裕子、尾岸恵美子、長村航、小田嶋晋、小野正恵、片山一朗、川並透、北浜真理子、木村和、腰原公人、小林陽子、小檜山敦子、後藤由美子、柴田匡那、白取絹恵、関保、関野愉、宗田聡、高橋尚彦、高橋洋子、竹内正人、竹田佳子、土井庄三郎、土井賢、中山祐紀子、長坂不二夫、野宮明、原美鈴、藤井靖子、古屋昌子、真野響子、三浦美奈子、宮崎伸一、武者芳朗、宗村弥生、村井保夫、若澤弥生、脇田哲、渡邊亮一、和藤幸弘 2013 年 3 月、看護師・看護学生のためのレビューブック 2015、メディックメディア、P1249 (G1～G46 血液・造血器疾患)

学会等の役職

- ・財団法人医療情報システム開発センター「疾患別看護用語セット開発委員会」 委員
- ・財団法人医療情報システム開発センター「看護業務 IT 化検討委員会」 委員
- ・財団法人医療情報システム開発センター「看護記録検討分科会」 委員・主査

社会貢献

- ・「退院調整看護師の役割を理解は、必要な知識とスキルを身につける」新葛飾病院看護部主宰の研修会 講師 2013 年 7 月
- ・「平成 25 年度多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業加茂川研修会」グループワークのファシリテーター 2014 年 2 月
- ・「介護職員等の喀痰吸引等研修(特定の者対象)」における吸引研修講師 2014 年 3 月

工藤 由美

学会発表

- ・工藤由美、2013 年 6 月、「盛り上がらなかったフィエスタ：マプーチェ先住民組織の議論の過程にみる態度の多面性と重層性」、第 47 回日本文化人類学会研究大会(慶應大学)
- ・工藤由美、2013 年 7 月、「チリの首都におけるマプーチェ組織活動にみるケアと応

答性」、日本文化人類学会・第39回中国・四国地区研究懇談会（広島大学）

研究助成及び研究活動報告

研究活動報告

- ・ Yumi KUDO, 09. 2013, Un Estudio descriptivo del “Care”: Un Analisis de los sucesos diarios de “Care” que se observan en las actividades de una organización indígena mapuche en la ciudad capital de Chile, Asamblea general de Organización Mapuche Kallfulikan, (Santiago de Chile).

社会貢献

- ・ 東邦大学看護学部「文化人類学」講師（16時間）

久保 幸代

学会発表

- ・ 金澤貴子、恵美須文枝、久保幸代、潮田千寿子、高橋浩美、鹿野知賀子、2013年10月、助産師学生の母乳育児支援に関する授業実践、日本保健科学学会（東京）
- ・ 久保幸代、安達久美子、2014年3月、唾液コチニンを用いた乳児と母親の受動喫煙実態調査、日本助産学会学術集会（長崎）
- ・ 金澤貴子、久保幸代、潮田千寿子、高橋浩美、鹿野知賀子、恵美須文枝、2014年3月、助産師学生の臨地実習における母乳育児支援の学習過程、日本助産学会学術集会（長崎）

研究助成及び研究活動報告

（1）研究助成

- ・ 平成25年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）研究課題番号25463353、看護大学と臨床における労働時間の「等価交換」による連携・協働システムの構築、久保幸代（研究代表者）

（2）研究活動報告

上記科研の研究活動として、臨床管理者、臨床スタッフ、教員が、システムの内容とシステムの実施におけるメリット・デメリットを知ることと、今後の取り組み内容を検討することを目的として、国内施設5ヶ所、海外施設2か所の視察を行った。

社会貢献

- ・ 日本助産師会 組織強化委員会 委員

栗栖 千幸

学会発表

- ・ 宮崎美砂子、石丸美奈、飯野理恵、岩瀬靖子、上田修代、杉田由加里、栗栖千幸、佐藤紀子、2013年8月4日、予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目の検

討一熟練保健師への意識調査一、第 16 回日本地域看護学会学術集会（ホテルクレメント徳島）

- ・栗栖千幸、2013 年 8 月 25 日、看護サービスが病院の非財務指標である患者満足度に与える影響、第 17 回日本看護管理学会学術集会（東京ビッグサイト）
- ・Yoshinobu Shima, Kenji Yasukata, Chiyuki Kurisu, November 3 2013, An Empirical Investigation of the Effects of Customer Satisfaction on Financial Performance, The 9th Asia-Pacific Management Accounting Association(APMAA) Conference (Nagoya University, Japan)

研究助成及び研究活動報告

（研究助成）

- ・公益財団法人メルコ学術振興財団 研究助成 助成金交付番号研究 2012004 号、看護サービスのマネジメントが病院の業績に及ぼす影響、栗栖千幸（研究代表者）
- ・平成 25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）課題番号 25463352 号、看護サービスの品質マネジメントモデルの構築に関する研究、栗栖千幸（研究代表者）安酸建二（研究分担者）、島 吉伸（研究分担者）
- ・平成 25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B）課題番号 25293470 号、予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドの作成と普及に関する研究、宮崎美砂子（研究代表者）研究分担者：石丸美奈（研究分担者）、杉田由加里（研究分担者）、飯野理恵（研究分担者）、時田礼子（研究分担者）、佐藤紀子（連携研究者）、栗栖千幸（連携研究者）、上田修代（連携研究者）、岩瀬靖子（研究協力者）、土屋裕子岩瀬靖子（研究協力者）
- ・平成 25 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）課題番号 25463353 号、看護大学と臨床における労働時間の「等価交換」による連動・協働システムの構築、久保幸代（研究代表者）、栗栖千幸（連携研究者）、恵美須文枝他 7 名（研究協力者）

（研究活動報告書）

- ・公益財団法人メルコ学術振興財団 研究助成 助成金交付番号研究 2012004 号
平成 24 年 6 月 18 日交付（研究期間：2 年間）中間報告書 2013 年 11 月 8 日提出
研究課題名：看護サービスのマネジメントが病院の業績に及ぼす影響
研究代表者：栗栖千幸
- ・平成 22 年度～平成 24 年度科学研究費補助金 基盤研究（C）研究成果報告書
研究課題名：予防活動の持続・発展に影響を与える体制・システム構築に関する地域看護技術（課題番号 22592537 号）
研究代表者：宮崎美砂子（千葉大学大学院看護学研究科 教授）
研究分担者：石丸美奈，飯野理恵，時田礼子，岩瀬靖子
連携研究者：佐藤紀子，杉田由加里，上田修代，栗栖千幸

社会貢献

- ・平成 25 年度 千葉県多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業 医療、介護の多職種が連携するために行う研修会 平成 26 年 2 月 11 日（火・祝）

小林 美奈子

著書

- ・看護師国試 2014 完全攻略 BOOK クリニカルスタディー11 月増刊号第 13 号、2014 年、メジカルフレンド社、P.39、P.54～59

原著論文等

- ・Kumiko Morita,Minako Kobayashi:Interactive programs with preschool children bring smiles and conversation to older adults: time-sampling study,BMC Geriatrics 2013, 13:111 doi:10.1186/1471-2318-13-111 3 .

学会発表

- ・森田久美子、小林美奈子、2013 年 10 月、デイサービスにおける世代間交流プログラム内容の検討～交流 内容の検討～、第 4 回日本世代間交流全国大会
- ・小林美奈子、2013 年 12 月、高齢者デイケア施設における利用者と職員の双方向参加型アクティビティケアの開発、第 33 回日本看護科学学会学術集会
- ・小林美奈子、2014 年 2 月、デイサービス利用高齢者の心身の健康に影響する要因、第 18 回日本心身健康科学会

研究助成及び研究活動報告

- ・平成 24 年度後期一般公募「公益法人勇美記念財団在宅医療助成」完了報告書（2014）、被災地の通所サービス利用者と介護職員の 触れ合いを通したうつ予防プログラムの開発、小林美奈子（研究代表者）
- ・平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 25463617、地域の実情に合わせた世代間交流プログラムの開発と有効性の検証、森田久美子（研究代表者）、小林美奈子（研究分担者）、佐々木明子（研究分担者）

社会貢献

- ・東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科「地域健康増進看護学」非常勤講師（3 コマ）
- ・石巻市大森デイサービス、災地復興支援を目的とした「タッピングタッチ」と「笑いヨガ」の体験講座、2013 年 9 月 17 日
- ・茨城県社会福祉協議会主催行事 「平成 25 年度福祉コミュニティづくり推進のつどい」にてタッピングタッチ体験講座、2014 年 2 月 24 日

佐久間 夕美子

原著論文等

- ・齋藤彩子、木村加奈子、佐久間夕美子、小宮亜弓、佐藤美紗子、小林由季、佐藤千史、in press、企業における動脈硬化対策の実態調査－健康関連商品製造企業および一般企業との比較－、社会保険旬報
- ・佐久間夕美子、宮内清子、佐々木晶世、臼井綾子、佐藤千史、in press、女性労働者における簡易なヨーガ・プログラムの効果、日本健康医学会誌
- ・佐々木晶世、佐久間夕美子、大竹まり子、叶谷由佳、佐藤千史、in press、28 日間のガム咀嚼が小学生のストレスに与える影響、健康医学会誌
- ・菅野眞奈、森山明美、佐久間夕美子、佐藤千史、2013 年 6 月、循環器内科領域における虚血性心疾患患者の QOL に関する過去 10 年間の文献検討、HEART nursing、26 (6)、P. 641～647
- ・望月美由紀、森山明美、佐久間夕美子、原田彩菜、佐藤千史、2013 年 7 月、栄養系女子大学生の食生活に関する意識と行動、臨床栄養、123 (1)、P.103～105

学会発表

- ・佐久間夕美子、佐々木晶世、臼井綾子、佐藤千史、2013 年 8 月、高齢者施設におけるシニアヨーガの効果、一般社団法人日本看護研究学会第 39 回学術集会（秋田県民会館他）
- ・佐々木晶世、佐久間夕美子、叶谷由佳、佐藤千史、2013 年 11 月、ガム咀嚼が精神作業負荷による疲労に与える影響、第 23 回日本健康医学会総会（東京農業大学）
- ・佐久間夕美子、佐藤亜月子、富樫千秋、2013 年 12 月、基礎看護学実習における学生の心理的变化と活動－状態指向性の関連、第 33 回日本看護科学学会学術集会（大阪国際会議場）

佐藤 真由美

著書

- ・佐藤真由美、眞野響子、高橋道明ら、2013 年 11 月、クリニカルスタディー11 月増刊号 看護師国試 2014 完全攻略 BOOK 第 13 号、メジカルフレンド社、p38、40、58、60

学会発表

- ・佐藤真由美、2013 年 6 月、婦人科がん治療後下肢リンパ浮腫を発症した患者の思い・考え、第 37 回日本リンパ学会総会、アクロス福岡
- ・MAYUMI SATO、2013 年 8 月、Changes in Quality of Life of Gynecology Cancer Patients after Lymphadenectomy, The 21 st IUHPE World Conference 2013,(PEACH)
- ・佐藤真由美、2013 年 12 月、婦人科がん治療後患者のリンパ浮腫予防のためのセルフ・マネジメントに関する海外のエビデンス、第 33 回日本看護科学学会学術集会、大阪国際会議場

- ・佐藤真由美、2014年1月、婦人科がん術後患者の就業に対する思い・考え、第2回日本公衆衛生看護学会学術集会、国際医療福祉大学小田原保健医療学部
- ・佐藤真由美、2014年2月、婦人科がん手術後患者の6か月間の経過に伴う思い・考えとその変化、第28回日本がん看護学会学術集会、朱鷺メッセ

学会等の役職

- ・日本公衆衛生看護学会 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会実行委員

研究助成及び研究活動報告

研究助成

- ・平成23年度文部科学省科学研究費助成事業(基盤研究C)研究課題番号23593278、婦人科がん治療後リンパ浮腫予防のセルフ・マネジメントを促す教育的介入プログラム開発、佐藤真由美(研究代表者)、佐藤禮子(研究分担者)

研究活動報告

婦人科がん患者が、治療後リンパ浮腫予防のためのセルフ・マネジメント(S・M)を促す教育的介入プログラムを開発、評価した。【方法】同意者を封筒法で弁別、無作為比較試験を実施。介入6ヵ月後1.浮腫状況、2.健康問題対処、3.自己効力感、4.S・M行動を検討。【結果】109名に実施。介入群38名(回収率68%)、対症群33名(回収率62%)。1.浮腫状況:リンパ浮腫診断者は、対象群が介入群より有意に多かった。2.健康問題対処:対象群が介入群より有意に低かった。3.自己効力感:有意差は無かった。3.S・M行動:対象群が介入群より有意に低かった。【考察】リンパ浮腫予防のS・M効果を顕著に示していた。

社会貢献

- ・「婦人科がん治療後リンパ浮腫予防のための看護」、帝京大学ちば総合医療センター看護師研修会、2013年8月、講師(3時間)
- ・「婦人科がん治療後リンパ浮腫予防のためのセルフ・マネジメントを促すプログラム開発」、2014年2月、平成25年度研究交流会、講師(1時間)
- ・第3号研修(喀痰吸引)、平成25年度第3号研修(喀痰吸引)、2014年3月(4時間)

渡邊 八重子

著書

- ・編集:手島恵・藤本幸三, 共著者:住吉蝶子・渡邊八重子・嶋森好子・小寺栄子・洪愛子・上杉睦美・坂本すが・操華子・山岸まなほ・尾崎フサ子・陣田泰子・他、2013年8月、看護学テキストNICE, 看護管理学, 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル

学会発表

- ・渡邊八重子, 青木和夫, 2013年8月, 交替制勤務における看護業務の労働負担と疲労に関する研究, 第8回日本安全学教育研究会

研究助成及び研究活動報告

- ・平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 25463354、看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価、渡邊八重子（研究代表者）、手島恵（研究分担者）、休波茂子（研究分担者）、クローズ幸子（研究分担者）

社会貢献

- ・チーム医療の実現と課題，2月
本シンポジウムは、厚生労働省医政局医事課「平成 24 年度チーム医療普及推進事業委託費交付金」によって開催されたものである。ここでは、亀田総合病院に TeamSTEPPS をどのように導入していったか報告した。
- ・福島県看護協会平成 25 年度認定管理者教育課程ファーストレベル，6月，テーマ：チーム医療
- ・日本看護学教育学会医療安全研修会，8月，テーマ：みんなで学ぶチームビルディング

鶴沢 淳子

研究助成及び研究活動報告

研究活動報告

平成 26 年 4 月より基礎看護学の治療援助論の授業において学生に質問調査紙を用いて以下の内容で研究

テーマ「基礎看護学教育に TBL を用いた教育方法の検討」

ー基礎看護学教育プログラムの作成を導き出すー

鶴沢淳子（研究代表者）、有家香（研究分担者）、休波茂子（研究分担者）、臼井綾子（研究分担者）、佐久間夕美子（研究分担者）、渡邊八重子（研究分担者）

社会貢献

- ・株式会社 トータルケアコミュニケーション 非常勤講師
「認知症研修」 グッドタイムアライアンス
社会福祉法人 創生会 創生園青葉
社会福祉法人 江東ことぶき会 こすもす
平成 25 年度実務時間 97.5 時間
- ・日本アンガーマネジメント協会 ファシリテータ

金澤 貴子

学会発表

- ・金澤貴子、恵美須文枝、久保幸代、潮田千寿子、高橋浩美、鹿野知賀子、2013 年 10 月 5 日、助産師学生の母乳育児支援に関する授業実践、日本保健科学学会第 23

回学術集会（首都大学東京荒川キャンパス）

- ・ 金澤貴子、久保幸代、高橋浩美、潮田千寿子、鹿野知賀子、恵美須文枝、2014年3月23日、助産師学生の臨地実習における母乳育児支援の学習過程、日本助産学会第28回学術集会（長崎ブリックホール）

研究助成及び研究活動報告

- ・平成25年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）研究課題番号25463353、看護大学と臨床における『等価交換』による連携・協働システムの構築、久保幸代（研究代表者）、栗栖千幸（連携協力者）、恵美須文枝（連携協力者）、金澤貴子（研究協力者）、熊澤美奈好（研究協力者）、潮田千寿子（研究協力者）、高橋浩美（研究協力者）、前田広美（研究協力者）、影山ユウ子（研究協力者）、石川健二（研究協力者）
- ・平成25年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）課題番号25463527、10代女性の周産期を中心とした育児支援システムの構築、小川久貴子（研究代表者）、恵美須文枝（研究分担者）、安達久美子（研究分担者）、白井千晶（研究分担者）、竹内道子（研究協力者）、田幡純子（研究協力者）、潮田千寿子（研究協力者）、鈴木小弥香（研究協力者）、金澤貴子（研究協力者）、内田朋子（研究協力者）
- ・亀田医療大学学長裁量経費特別研究費、ALSO コースの開催準備、金澤貴子（研究責任者）、恵美須文枝（共同研究者）、久保幸代（共同研究者）、鈴木真（共同研究者）

社会貢献

- ・Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO)プロバイダーコース及び、Basic Life Support in Obstetrics(BLSO)コースアシスタント
- ・新生児蘇生法「専門」コースアシスタント

松丸 直美

学会発表

- ・新井淳子、萩原美奈、三井建治、松丸直美、2014年2月、精神科経過記録での不適切な記録表現の実態調査—経過記録調査から今後の課題を明確にする—、第32回千葉県看護研究学会（千葉市、東京ベイ幕張ホール）

柚山 香世子

原著論文等

- ・柚山香世子、2014年2月、児童養護施設における思春期女子への性（生）教育、へるす出版、小児看護、第37巻第2号、P.177～P.183

学会発表

- ・柚山香世子、中村伸枝、佐藤奈保、2013年9月、児童養護施設に入所している思春期女子の心身の変化の特徴、日本小児保健協会学術学会（東京：国立オリンピック

記念青少年総合センター)

- ・ 柚山香世子、中村伸枝、佐藤奈保、2014年12月、思春期女子を支援する児童養護施設の専門職職員の「性への配慮」と「性教育への認識」および「看護職の役割」、子ども虐待防止学会（於信州大学）

社会貢献

- ・ 児童養護施設（子山ホーム）での性教育の実施（講師）：年3～5回（継続中）

臼井 綾子

学会発表

- ・ 臼井綾子、休波茂子、2013年8月、看護師の意識障害患者への関わりに関する文献検討、日本看護研究学会（秋田）
- ・ 佐久間夕美子、佐々木昌代、臼井綾子、佐藤千史、2013年8月、高齢者施設におけるシニアヨーガの効果、日本看護研究学会（秋田）

7. 入学者選抜

1) 入学者選抜の概要

看護学部看護学科において、平成 26 年度入試を実施した。入試結果は次のとおりである。

	募集 人員	志願者	受験者	合格者	実質倍率	入学者
推薦入試 (指定校含む)	40	48	48	47	1.02	47
一般入試Ⅰ期	25	144	126	65	1.94	34
一般入試Ⅱ期	5	39	31	9	3.44	7
センター試験利用	10	85	37	10	3.7	3
合計	80	316	242	131	1.85	91

なお、男女別、現浪別、県内外別の結果は次のとおりである。

【男女別】

試験区分	募集 人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
推薦入試 (指定校含む)	40	10	38	48	10	38	48	10	37	47	10	37	47
一般入試Ⅰ期	25	25	119	144	21	105	126	8	57	65	7	27	34
一般入試Ⅱ期	5	9	30	39	6	25	31	1	8	9	1	6	7
センター試験利用	10	16	69	85	8	29	37	1	9	10	1	2	3
合計	80	60	256	316	45	197	242	20	111	131	19	72	91

【現浪別】 ※浪人は社会人を含む

試験区分	募集 人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数		
		現 役	浪 人	計	現 役	浪 人	計	現 役	浪 人	計	現 役	浪 人	計
推薦入試 (指定校含む)	40	48	0	48	48	0	48	47	0	47	47	0	47
一般入試Ⅰ期	25	111	33	144	100	26	126	58	7	65	29	5	34
一般入試Ⅱ期	5	25	14	39	19	12	31	7	2	9	5	2	7
センター試験利用	10	71	14	85	29	8	37	7	3	10	2	1	3
合計	80	255	61	316	196	46	242	119	12	131	83	8	91

【県内外別】

試験区分	募集 人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数		
		県 内	県 外	計	県 内	県 外	計	県 内	県 外	計	県 内	県 外	計
推薦入試 (指定校含む)	40	30	18	48	30	18	48	30	17	47	30	17	47
一般入試Ⅰ期	25	66	78	144	58	68	126	31	34	65	19	15	34
一般入試Ⅱ期	5	14	25	39	11	20	31	3	6	9	3	4	7
センター試験利用	10	49	36	85	21	16	37	7	3	10	2	1	3
合計	80	159	157	316	120	122	242	71	60	131	54	37	91

8. 学生関係

1) 学生定員・在籍異動状況（平成26年3月31日現在）

看護学部看護学科

	入学定員	在籍学生数	退学者	休学者
1年生	80名	79名	0名	0名
2年生	80名	82名	2名	3名

2) 学生生活

(2) 奨学金給付・貸与状況

奨学金の名称	貸与人数
医療法人鉄蕉会奨学金	125
医療法人鉄蕉会修学資金	84
千葉県保健師等修学資金	19
日本学生支援機構奨学金第一種	16
日本学生支援機構奨学金第二種	32

(3) 住居状況

自宅通学	38
学生専用住宅	58
民間アパート	65

(4) Will（学生保険）の申請状況

補償タイプ	年間掛金	加入人数
Will 1	3,000円	0
Will 2	4,500円	73
Will 3	7,000円	77
Will 3 DX	9,000円	11
	合計	161

3) 学生自治会

(1) 役員

役職名	氏名	所属
会長	高尾 和史	看護学科2年次
副会長	篠塚 美穂	看護学科2年次
副会長	菊池 麻衣	看護学科1年次
書記	鈴木 杏奈	看護学科1年次
会計	北見 優衣	看護学科1年次

(2) 部活動

団体名	責任者	顧問
弓道部	久坂 真之	佐久間 夕美子
水泳部	江本 絵里奈	深谷 智恵子
Lanakia (バレーボール部)	坂本 羽衣	休波茂子、臼井綾子
サーフィン部	小池 あい	小幡 光子
軽音楽部	小林 久記	小幡 光子
亀田FC (サッカー・フットサル) 部	高野 雄太郎	久保 幸代
書道サークル	大澤 三咲	足立 智孝
美術部	荻原 東	新居 富士美
バスケットボールサークル	武田 修平	渡邊 八重子
卓亀 (卓球サークル)	井上 望	栗栖 千幸
スケートボードサークル	渡辺 凌輔	深谷 智恵子
手話サークル	畠山 優希	大石 昌也
ぴあサークル	蒲谷 奈緒子	久保 幸代
ダンス部	村上 由貴	高橋 道明
メディアクリエーション部	小松 久晃	鶴沢 淳子
ダンスサークル	外間 佑衣	栗栖 千幸

(3) 学生自治会活動（大学祭）

大学祭実行委員会

役職名	責任者	所属
実行委員長	久坂 真之	看護学科 2年次
副委員長	林 沙恵	看護学科 2年次
	菊地 麻衣	看護学科 1年次
会計	熊谷 紗友梨	看護学科 2年次
イベント	長谷川 朝子	看護学科 2年次
広報	メディアクリエーション部	
バザー	高橋 奈央	看護学科 2年次
有志	小林 久記	看護学科 2年次
模擬店	阿部 美鈴	看護学科 2年次
看護体験	高梨 佳子	看護学科 2年次

9. 図書館

1) 概要

学校法人鉄蕉館 亀田医療大学

Institute of Health Sciences Tesshoukan, Kameda College of Health Sciences Library

設備	総面積	748.7 m ² (開架書庫:568.25 m ² 、閉架書庫:58.2 m ²)	
	開架書庫収蔵能力	約 22,000 冊	
	閲覧スペース	70 席	
	グループワーク室	3 室(各 12 席)	
	情報検索コーナー	10 席(PC10 台)	
	AV コーナー	6 席(DVD/VHS プレーヤー6 台)	
	ブラウジングコーナー	7 席	
	その他	書架ベンチ長椅子 4 台、書架椅子 6 席、和スペース 7 畳	
運用	開館時間	平日	9 時～20 時
		土・短縮開館	9 時～17 時
	館長	米林喜男(看護学部基礎:教授)	
	スタッフ	専任 1 名: 立野幸子(学務:図書館司書)	
		兼任 1 名: 稲葉京子(亀田医療技術専門学校:図書室長)	
		事務補佐員 2 名: 吉野千春、日方美幸	

2) 沿革

2012 年	4 月	図書館開館 初代館長 米林喜男
	6 月	日本看護図書館協会 入会
	8 月	私立大学図書館協会 加盟
	8 月	NACSIS-CAT 参加
	10 月	NACSIS-ILL 参加
	10 月	学外者暫定運用開始(亀田医療技術専門学校、亀田メディカルセンター所属者対象)
2014 年	1 月	大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE) 参加

3) 利用者サービス

◇学習・研究支援

名称	開催日	対象	参加人数	内容	場所	時間
教員オリエンテーション	4/2(火)	教員	約30名	利用案内、著作権	第1会議室 BC	45分
新入生オリエンテーション	4/5(金)	1年生	79名	利用案内、館内ツアー	第3講義室	45分
在学生ガイダンス	4/5(金)	2年生	約80名	サービス変更点 マナー喚起・督促連絡	第1講義室	10分
図書館ナビ	4/16(火)	1年生	約20名	資料活用方法	情報処理室	90分
	4/23(火)		×4回	検索の基本	図書館	
文献管理ソフト 「EndNoteX6」セミナー	4/24(木)	教員	15名	EndNoteX6 デスクトップ初級編	第2講義室A	90分
文献管理 Web サービス 「Refworks」セミナー	5/10(金)	教員	3名	Refworks の 文献管理・活用方法演習	情報処理室	90分
雑誌論文の探し方 (国内入門編)	6/4日(火)	1年生	約40名 ×2回	契約データベース 国内編の検索基本演習	情報処理室	90分
雑誌論文の探し方 (国外編)	11/8(金)	希望者	1回:4名 2回:2名	CHINAL と PubMed の検索基本演習	情報処理室	60分
雑誌論文の探し方 (国内応用編)	11/13(水)	希望者	1回:4名 2回:2名	医中誌と JDreamIII の検索演習	情報処理室	60分
基礎ゼミ II 発表 (栗栖千幸)	12/17(火)	ゼミ生	10名	「鴨川を知ろう！」の文献検索 検索補助・発表の講評	7演習室	90分

◇展示

名称	開催日	場所	内容
【小展示】5月12日看護の日 ——ナイチンゲール生誕日	5/8(火)～ 31(金)	情報検索 コーナー	ナイチンゲール関係資料と「フローレンス・ナイチンゲール・テディベア」の小展示

4) 図書館職員の活動

◇出張・研修など

名称	場所・開催日	参加者	内容
私立大学図書館協会 東地区部会研究講演会	国学院 6月14日(金)	立野	「大学図書館と共に拓く学術情報基盤の新たな地平」尾城孝一 「学習支援の現在と図書館の新たな役割」野末俊比古
図書館司書過程 「図書館基礎持論」 講師派遣	十文字 8月9日(金)	立野	テーマ「図書館を取り巻くシゴト:女性のキャリア・パスを考える」 (講演・質疑応答・パネル議論:立野)
日本医学図書館協会主催 医学図書館員基礎研修会	千大 8月26日(月)～ 28(水)	立野	講演、講義、演習、グループ討議によるヘルスサイエンス 図書館員に必要な基礎知識と技能の習得
私立大学図書館協会 総会・研究大会	中京大 8月29日(木)～ 30(金)	米林 立野	テーマ「大学図書館の存在意義とその役割を再考する」
図書館総合展	パシフィコ横浜 10月30日(水)	立野	帝京大学メディアライブラリーセンター「『学びの力』を獲得する『共読』学習支援プログラムの開発」 情報館ユーザー研究会「事例発表」
看護図書館協会 看護図書館情報研究会	国医福大 11月10日(日)	立野	「看護診断」と「レファレンス」 「蔵書構築の連携」(発表:立野)
日本医学図書館協会主催 聖路加病院見学・講演会	聖路加病院 3月20日(木)	立野	聖路加病院、大学図書館見学会 「聖路加国際病院の歴史と展望」日野原重明

5) 統計

◇利用統計

2013	開館 日数	入館者数			貸出冊数				ILL (相互利用)		レファレンス	複写	
		学内	学外		学生	教職員	学外		依頼	受付		カラー	白黒
		251	16,872	14	16,886	1,334	877	8	2,219	247		0	270
2012	261	11,022	12	11,034	667	210	10	887	106	0	74	1,060	2,996

※入館者数の学内には見学者も含む。

※学外利用…2012年10月より亀田医療技術専門学校・亀田総合病院所属者対象で暫定運用

◇資料統計

2013	受入 数	図書			雑誌タイトル			電子 ジャーナル		デー タベ ース	視 聴 覚	新 聞
		和書	洋書		和雑誌	洋雑誌		国内	国外			
		購入	1,558	12	1,570	85	15	100	1,426			
寄贈	644	2	646	5	0	5	-	-	-	4	1	
合計	2,202	14	2,216	90	15	105	1,426	840	4	87	7	
2012		2,656	321	2,977	71	15	86	899	797	2	92	7
2011		4,656	518	5,174	41	10	51	-	-	-	73	-
総所蔵数		9,514	853	10,367	92	15	107	1,426	840	4	252	7

※4/1-3/31の集計

※視聴覚資料の受入数は単体のみとし、本体のある付録資料は除く。

※電子ジャーナルは出版社(学協会含む)、アグリゲータ(複数の出版社の電子ジャーナルを提供する業者)を含む。

また出版社、業者の所在により国内、国外とする。

10. 保健室

1) 保健室の利用、整備、及び啓蒙活動に関する報告

(1) 年間の保健室利用（ベッド使用・救急箱使用）に関する集計

1. ベッド使用状況

件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年	1	2	2	1	1	0	1	1	1	0	1	—	11
2年	0	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0	—	6
他	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	—	2
合計	1	4	3	3	1	0	1	4	1	0	1	—	19

(2) 学生の健康相談状況、及び感染症報告

1. 保健室メールの使用状況

0件/年（2014年2月28日現在）

2. 健康相談の件数、およびその内容（健康診断結果以外のもの）

学年	人数（人）	回数（回）
1年生	4	16
2年生	2	3

3. 感染症報告

診断名	1月	2月
インフルエンザ	0人	3人（1年1人、2年2人）
感染性胃腸炎	1人（1年1人）	1人（1年1人）

(3) 臨床心理士による学生相談の報告

7月：1人1回

11月：1人1回

(4) 保健室管理・整備に関して

1. ノロウイルス対策の見直し

- ・学年の増加に伴い、嘔吐物処理用キットの設置場所を3箇所から5箇所に増設した。

（現在の設置場所：図書館、第1～4講義室）

- ・嘔吐物処理用キットの内容を見直し、処理の手順に応じて付属物品を追加した。

(主に、消毒や飛沫対応に関する物品の追加)

- ・「感染性胃腸炎対応フロー」を学生用・教職員用に分けて修正した。

(理由：学生と教職員がそれぞれどのように対応したらよいかを明確にするため。)

2. インフルエンザ対策の見直し

- ・「インフルエンザ対応フロー」を学生用・教職員用に分けて修正した。

(理由：学生と教職員がそれぞれどのように対応したらよいかを明確にするため。)

- ・感染症報告書を修正した。(理由：学生から電話連絡を受けた際の事務側の記載箇所と、学生本人の記載箇所を明確にするため。)

(5) 啓蒙活動

1. 6月、亀田総合病院・スポーツ医学科・医師の大内洋氏を招き、外傷や熱中症に関する講演会「大学生におけるスポーツによる傷害」を開催した。
2. 10月、亀田総合病院・感染管理室・ICN 認定看護師の古谷直子氏を招き、感染症に関する講演会「感染症から自分を守る」を開催した。
3. 11月の拡大教授会後に松丸委員から教職員に対して、感染性胃腸炎による嘔吐物の処理方法について説明を行った。
4. 12月、深谷委員と大石委員から学生に対して、インフルエンザと感染性胃腸炎について、それらの予防策と症状出現時の対処方法について説明を行った。

(6) 次年度の課題

- ・保健室の整備 (資料の整理、事務用品の補充、個人ロッカーなど)
(必要に応じて「業務マニュアル」の作成)

2) 健康診断の結果に関する報告

5月中旬に健康診断の結果を受け、保健室では本学の教員3名で、①要受診・再検査が必要な学生と、②保健相談が必要な学生、計52名を対象に、5月から12月までの期間、継続的に個別の保健相談を実施した。下記にその詳細を記す。

(1) 要受診・要検査が必要な学生の内訳（人）

診療科	1年生	2年生	小計
内科	9	5	14
内分泌科	0	1	1
感染症科	3	0	3
合計	12	6	18

参考：前年度（1年生のみ）の状況は、内科4名、感染症科3名、眼科1名、循環器内科1名の計9名。

(2) 保健相談を実施した学生の主な症状と人数

保健相談理由	1年生	2年生	小計
クオアティフェロン陽性	2	0	2
クオアティフェロン保留	8	0	8
甲状腺肥大	0	1	1
空腹時血糖高値	1	0	1
軽・中等症高血圧	1	5	6
高コレステロール血症	4	0	4
高尿酸血症	2	0	2
低中性脂肪症	1	0	1
尿蛋白陽性	3	0	3
視力低下(裸眼両目0.3以下)	5	0	5
白血球増加	2	0	2
肥満 (BMI \geq 26)	5	16	21
痩せ (BMI $<$ 18)	2	0	2
貧血	1	1	2
合計	37	23	60

(3) 保健相談の実施状況

保健相談時の指導内容は、主に要受診に該当する学生に受診を勧めること、健康診断結果に関連する症状の有無と程度、またそれらの症状に関連する日常生活の状況の聞き取りを行った。これらを踏まえて、高血圧、視力低下、貧血、体重（肥満・痩せ）等に関するリーフレットを作成し、生活習慣に関する指導を行った。また、受診後の報告や、高血圧、体重管理に関する継続的なチェックを実施した。

個別の保健相談内容は、必要に応じて学生本人に了解をとり、保健衛生安全管理

委員長とその学生を担当するチューターに報告した。月別の実施回数は以下の通り（受診後の報告も含む）。

学年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年生	37	10	3	1	0	3	0	1
2年生	18	4	5	0	0	0	0	0

(4) 肥満（BMI \geq 26）への対応について

健康診断の結果、保健相談を実施した学生のなかでも肥満に該当する学生の人数が最も多かった。とりわけ、2年生に関しては、前年度と比較して「+5kg3名、+8kg3名、+10kg3名」と、今年度新たにBMI26以上になってしまった学生が目立った。保健指導の内容は、個々の学生の生活状況や好みに合わせた食事・運動指導を行い、一部の学生からは途中経過として減量ができている報告を受けたが、以下、参考までに学生から聴取した肥満に関連する生活習慣の一部を抜粋する。

- ・肥満に該当した一人暮らしと実家から通学している学生の割合。約2：1。
- ・一人暮らしで外食が多い。
- ・バイト先で夜遅くに夕食（賄い）を食べる。
- ・友人に誘われると、それぞれの友人と夕食を2回食べてしまう。
- ・帰省すると両親が喜んで沢山食事を作ってくれたり、外食が増える。
- ・高校生の頃から無理なダイエットしかできなく、±8kg/年の増減を繰り返している。
- ・運動が苦手。動くのが億劫。
- ・今まで体重を自分で測ったことがなかった。

3) 予防接種に関する報告

学生の予防接種は、教員3名で対応し、年間5回実施した。下記にそれらの詳細（実施時期、予防接種項目、対象、実施者数、及び実施後の状況等）を記す。

(1) 予防接種1

日 時：5月30日（金）15:30-17:00

場 所：亀田クリニック・健康管理センター

接種項目：HB、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の各種ワクチン1回目

対 象：1年生と2年生の該当者（1年生79名、2年生4名）

（上記のうち1年生1名、2年生1名は地元のクリニックで接種した。）

接種項目の人数内訳（人）

	HB	麻疹	風疹	水痘	流行性耳下腺炎	麻疹・風疹混合
1年生	76	18	7	5	37	7
2年生	2	0	0	1	1	0

* 亀田クリニックで接種した学生に限る。

備考：①当日キャンセルなし。

②副作用に関連する症状を訴えた学生1名（1年生）あり。

後日、HB ワクチン接種部位の疼痛・発疹を訴え、外来（総合内科）を受診し、アレルギー検査を実施した。HB2回目（7月5日実施）は、クリニックの外来で接種した。

(2) 予防接種 2

日時：7月5日（金）15:30-17:00

場所：亀田クリニック・健康管理センター

接種項目：HB、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の各種ワクチン2回目

対象：1年生と2年生の該当者（1年生77名、2年生2名）

（上記のうち1年生1名、2年生1名は地元のクリニックで接種した。）

接種項目の人数内訳（人）

	HB	麻疹	風疹	水痘	流行性耳下腺炎	麻疹・風疹混合
1年生	75	1	3	1	25	0
2年生	1	0	0	0	0	0

備考：①当日キャンセル2名（1年生）あり。（理由：忌引、体調不良のため。）

上記2名は7月12日（金）に実施した。

(3) 予防接種 3

日時：7月17日（木）15:30-17:00

場所：亀田クリニック・健康管理センター

接種項目：百日咳ワクチン

対象：2年生の希望者46名（接種に関する同意の書名あり。）

備考：①当日キャンセルなし。

②副作用なし。

(4) 予防接種 4

日時：10月22日（火）15:00-17:00

場所：亀田医療大学・保健室

接種項目：インフルエンザ・ワクチン

- 対 象：全学年（1年生 78名、2年生 80名が学内で接種。）
（1年生 1名、2年生 1名は地元のクリニックで接種するため、学内では接種しなかった。）
- 備 考：①キャンセル 1名（2年生）あり。この学生は 11月 5日～16日の期間に、
亀田クリニックで接種した。

（5）予防接種 5

- 日 時：12月 19日（金） 15:30-17:00
- 場 所：亀田クリニック・健康管理センター
- 接種項目：HB ワクチン 3回目（最終回）
- 対 象：1年生と 2年生の該当者（1年生 77名、2年生 2名）
（上記のうち 2年生 1名は地元のクリニックで接種した。）
- 備 考：①キャンセル 4名（1年生）あり。（理由：帰省、家族の結婚式、忌引、
体調不良。）上記 4名は 1月 11日（土）に実施した。
- ②副作用に関連する症状を訴えた学生 1名（1年生）あり。
HB ワクチン接種部位の疼痛、息苦しさを訴え、医師の診察を受ける。
既往に喘息があり、持参していたホクナリンテープを貼付し、症状は
改善した。

1 1. 管理運営

1) 教授会

教授会は、学長、教授をもって構成する。なお、教育、研究等に関わる審議事項については、准教授、専任講師及び助教を加えて開催されている。

(1) 教授会

構成員

学長、教授（8名） 列席：事務局

主な審議事項

教員候補者の選考、入学者選抜、大学の管理運営 等

開催状況

20回

第1回	平成25年4月1日(月)	第13回	同年11月19日(火)
第2回	同年4月25日(木)	第14回	同年11月28日(木)
第3回	同年5月9日(木)	第15回	同年12月3日(火)
第4回	同年5月23日(木)	第16回	同年12月12日(木)
第5回	同年6月13日(木)	第17回	同年12月19日(木)
第6回	同年6月19日(木)	第18回	平成26年1月23日(水)
第7回	同年6月27日(木)	第19回	同年2月13日(木)
第8回	同年7月11日(木)	第20回	同年2月19日(木)
第9回	同年7月25日(木)	第21回	同年2月27日(木)
第10回	同年9月26日(木)	第22回	同年3月6日(木)
第11回	同年10月17日(木)	第23回	同年3月13日(木)
第12回	同年10月24日(木)	第24回	同年3月20日(木)

(2) 拡大教授会

構成員

学長、教授（8名）、准教授（5名）、講師（7名）、助教（6名） 列席：事務局

主な審議状況

教育・研究、教育課程の編成、学生の休学、退学、学生の諸活動及び生活指導、学生の賞罰、学内教育施設 等

開催状況

11回

第1回	平成25年4月11日(木)	第7回	同年11月14日(木)
第2回	同年5月9日(木)	第8回	同年12月12日(木)
第3回	同年6月13日(木)	第9回	平成26年1月9日(木)
第4回	同年7月11日(木)	第10回	同年2月13日(木)
第5回	同年9月12日(木)	第11回	同年3月13日(木)
第6回	同年10月17日(木)		

2) 教員選考委員会

構成

委員：各5名

担当事務：木内 千津子

会議開催状況

教員選考委員会（小児看護学 助教）	3回
教員選考委員会（基礎・専門基礎 助教又は助手）	4回
教員選考委員会（マクロ看護学 准教授又は講師）	4回
教員選考委員会（地域看護学 教授又は准教授）	4回
教員選考委員会（地域看護学 助教又は助手）	3回
教員選考委員会（基礎看護学 准教授）	2回
教員選考委員会（成人・老年看護学 准教授又は講師）	1回

審議事項・活動内容

各領域の教員採用について、公募の決定、募集要項の審議をし、大学ホームページ及び研究者人材データベースにて求人公募を実施。

応募者の選考、教授会の承認を経て、学長へ審査結果の報告等を行った。

今後の対応・課題

平成26年度中の教員確保のため、職位を拡げて公募を行うなど、設置計画に沿って公正な選考ができるように検討していく必要があると思われる。

3) 評価委員会

構成

委員長：クローズ 幸子

委員：深谷 智恵子、恵美須 文枝、小幡 光子、吉川 一枝、新田 静江、
宮本 眞巳、休波 茂子、米林 喜男、
石川 建二（1月31日まで）、堀 強

担当事務：瀧口 真穂（2月28日まで）、平川 弘一

会議開催状況

開催回数：3回

審議事項・活動内容

1. 平成25年度評価委員会活動目標

1) 本学における日本高等教育評価機構による評価の年度と日程の決定

- ・機関別認証評価は、日本高等教育評価機構とすることが教授会で承認された。平成30年度に受審することとする。なお、準備が整えば前倒しで受審する可能性がある。

2) 日本高等教育評価機構による自己点検評価項目の点検とデータ収集の計画

- ・自己点検評価の効率的な実施には、評価委員会の下部組織として作業部会を設置し、そこに担当させる必要がある。作業部会の構成員選任は、学長に一任する。教授会に、6名程度選出し、報告する。なお、評価委員会は、作業部会の実施経過を報告する場とする。

2. 日本高等教育評価機構25年度セミナーに出席・情報収集を行った。本学は、大学設置完成年度後、平成28年度から機関別認証評価を受審することができる。

3. 授業評価アンケートの実施要領及び学生による授業評価アンケートの修正が承認された。学生は、授業評価アンケート用紙に学籍番号を記入する必要はないことに決定した。

4. 学生によるオムニバス形式授業及びゲストスピーカー参加型授業用の授業評価アンケート用紙を作成し、教授会で承認された。

5. 専門領域の実習評価アンケートについて

専門領域の実習評価アンケートは、授業を念頭に置いた文言を実習に対応できるように修正した上で、学生による授業評価アンケートを実習科目ごとに実施することとした。

6. 実習評価基準（設置の趣旨等を記載した書類 資料16⑫⑬）は、「看護実践能力習得度評価表」として、9つの実践能力の中の評価項目をより理解しやすい様に修正した。

実施は、実習ごとでなく各学年を単位として、実習科目だけではなく、講義も含めて各年度末に個々の学生が到達度を記入しチューターに提出することとした。この評価基準は、教授会にて承認され、平成25年度末から実施されることとなった。

7. 学生によるアンケート結果の取り扱いについて：
 - ・学生による評価アンケートのデータへのアクセス権限の明確化が決定された。
 - ・授業評価の結果は各教員に配布し、教員はこれをもとに教育効果を計るとともに今後の改善の資料としている。また必要に応じて責任者が担当教員に面談を行い、教育の改善策を検討した。
 - ・アンケート結果（全科目平均値）を学内 web 上で学生に対し公開する予定である。
8. 教員による授業評価の実施要項と記入様式が承認された。
9. 教員による授業評価様式を教員に配付し、専任教員全員から平成26年5月24日までに評価用紙を回収した。
10. 設置計画履行状況（AC）報告書を文部科学省に提出した。（平成26年5月）

今後の対応・課題

1. 日本高等教育評価機構が指定する自己点検評価項目の確認とデータ収集の開始
2. 日本高等教育評価機構が指定する教職員の評価システムの開発
3. 日本看護系協議会が計画している分野別評価が完成し、実施されるまで、その経過をモニターし、本学のかかわりについて検討する必要がある。

4) 人権委員会

構成

委員長：宮本 眞巳
委員：足立 智孝、恵美須 文枝、眞野 響子、
藤枝 悦子、満田 稔（外部委員）
担当事務：木内 千津子

会議開催状況

開催回数：8回

審議事項・活動内容

1. ハラスメント防止に向けた体制整備
 - 1) ハラスメント防止に向けて人権委員会規則ならびにハラスメント防止に関する細則の改正を行った。
 - 2) ハラスメント防止に向けた相談体制の強化のため相談員を2名増員した。
2. 教職員ならびに学生に対するハラスメント防止研修の実施
 - 1) 7月11日、教職員を対象として、ハラスメントの定義、実態、防止対策についての周知を目的として、ハラスメント防止研修を行った。
 - 2) 1月14日、教職員を対象としてハラスメントの実態とその背景に関する理解と防止対策についての理解の共有に向けてハラスメント防止研修と併せて意識調査を行った。
 - 3) 後期のガイダンス時に、学生を対象としてハラスメントの定義と併せて、学生間で生じやすいハラスメントについての理解を深めることを主目的に研修を行った。
3. ハラスメントに関係のある相談事例についての検討
 - 1) 学生間でインターネット関連のハラスメントを疑われる相談事例があり、当事者の意向を尊重して調査委員会の設置には至らなかったが、当事者への相談対応並びに全学生への注意喚起を行って解決をみた。
4. 外部のハラスメント研修への参加
 - 1) 相談員2名が外部機関によるハラスメント研修に参加し、人権委員会の場で研修内容についての報告を受け、その内容を教職員研修に反映させた。

今後の対応・課題

1. 社会情勢に見合うハラスメント防止体制作りに向けた委員・相談員の研修体制の充実
2. 学内における教職員・学生へのハラスメント防止研修の充実
3. ハラスメント防止に向けた全学的な相談体制の整備

5) 研究倫理審査検討委員会

構成

委員長：足立 智孝

委員：小幡 光子、新居 富士美、佐久間 夕美子、栗栖 千幸

担当事務：平川 弘一

会議開催状況

開催回数：5回（うち書面会議3回）

審議事項・活動内容

1. 研究倫理審査検討委員会規則ならびに研究倫理審査取扱規程の改正案を作成した（教授会承認）。
2. 研究倫理審査委員会の運営
 - 1) 今年度より原則として偶数月の第4木曜日に定期的で開催した(今年度は6月27日、8月29日、10月24日、12月19日、2月27日の計5回)。
 - 2) 教員から要望のあった研究参加拒否・中止の書式（一旦研究への参加を承諾した被験者が、同意の撤回または取消をする際の書式）の必要性について審議したが、大学としての書式は作成せずに、申請時の提出も特に義務付けないことにした。
 - 3) 数年にまたがる研究を実施する場合の中間報告の書式を作成した。報告の提出時期は、以下の表のように審査承認の時期で異なる。

審査承認時期	中間報告時期
4月、6月、8月	3月
10月、12月、2月	9月

- 4) 今年度より委員会審査の前に、申請書1件につき2名の委員による事前審査を行った。事前審査者は委員長が依頼することとし、審査者のコメントは、研究申請者に対しては匿名で行うことにした（12月分の申請より）。
- 5) 研究審査申請時における研究倫理研修受講証明書の提出は、研究代表者（申請者）のみに義務づける。
- 6) 研究申請書の研究者の押印について、申請内容の変更だけで、研究分担の変更がない場合は、申請書の修正・提出毎には、分担研究者の押印は求めないこととした。
- 7) 審査の過程で、申請書類の修正を求められた場合には、申請者は修正箇所が明確に分かるような表記（修正箇所を赤字にする、見え消し表記にするなど）にするように、再周知することとなった。なお、修正の際にこの処理が十分でない場合は、事務局判断で書類を受理せず差し戻すこととした。

- 8) 本学教員が亀田総合病院で臨床研究の申請を行う際には、病院臨床研究審査委員会に「電子カルテ閲覧誓約書」の提出が義務づけられることになった。管理目的のため、本学研究倫理審査の申請時にも、同誓約書の提出を義務づけた。
 - 9) 研究申請者は、委員会出席の要求に関わらず、委員会開催時には、隣室の控室あるいは研究室での待機を原則とする。
 - 10) 提出書類に不備（研究計画書の欠落、押印忘れ等）がある場合は、事務局の判断で申請書を受理せず差し戻すこととした。
 - 11) 研究倫理審査委員会の主な役割は研究の倫理審査にあるため、その役割を越える研究方法に関するアドバイスなどは原則として行わないこととした。なお、事前審査の段階で研究方法などの不備の意見がある場合には、理由を添えて「不承認」の判断をすることを確認した。
 - 12) 申請書の所属長による記名および押印は、所属長の研究内容に対する責任を求めるものではなく、管理者として管理目的で継続して実施することとした。
 - 13) 事前審査チェックリストにおいて、不要とされる場合の書類項目（アンケート調査時の同意書等）の取扱いについては、更なる改善を検討することとした。
 - 14) 研究申請者が研究倫理審査文書作成にあたり、自己確認の目的で研究倫理申請書類チェックリストを作成した。なお、研究申請時に本チェックリストの提出は求めないことにする。
 - 15) 研究倫理審査委員会議事録は、委員会終了後作成し、委員長の確認を経て、次回委員会で承認を得ることとした。
3. 研究倫理研修会実施概要を作成した。概要は以下の通り。
- 「臨床研究に関する倫理指針」に則り、人を対象とする研究を行うすべての教員に対して、研修会受講を義務付ける。
- 研修会は年に2回行う。
- 初回研修：実施時期は4月。研修内容（1）研究倫理の基礎知識（2）研究倫理審査の手続き（3）研究倫理審査委員会の体制などに関して。
- アドバンス研修：実施時期は9月。研修内容（1）研究倫理に関する最近の動向（2）研究倫理指針等の変更点などに関して。
- 4月に実施する初回研修の受講修了を研究申請の際の要件とし、初回研修の修了者には、受講修了証を発行する（有効期間2年）。初回研修を受講できない場合は、同年に開催されるアドバンス研修を受講することで、仮受講証（有効期間1年）を発行する。
- 今年度は、9月12日に初回研修を実施した（講師は足立委員長）。
4. 亀田総合病院で行う研究の審査手続き
- 1) 審査対象外の研究の手続き

本学教員が亀田総合病院の職員あるいは患者などを対象とした臨床研究を実施する場合は、原則として同院の臨床研究審査の手続きに則るものとするが、研究対象者を観察するだけの教育的な研究（たとえば、研究者が看護学生の患者に対する手技を観察し、研究者が行った教育の効果を検証する研究など）は、病院臨床研究審査委員会における審査対象外となり、同委員会事務局に研究実施の届出をすることとなった（書式は自由）。

（2013年7月22日実施の亀田総合病院臨床研究審査委員会において承認）

2) 電子カルテ閲覧誓約書の提出義務化

本学研究支援委員会は、本学教員が亀田総合病院で研究を行う場合に想定される、電子カルテの閲覧に関する趣意書を作成した。今後はこの趣意書に則り、同病院で臨床研究の実施を申請する際には、「電子カルテ閲覧誓約書」の提出が義務づけられた。

5. 研究倫理審査委員会の公開

次年度からホームページ上での研究倫理審査委員会の情報公開を行うこととし、その公開内容は、はじめは委員名簿、申請件数及び承認件数の3項目とする。なお、情報公開の詳細については、情報担当教員と、来年度以降に検討する。

今後の対応・課題

1. 研究倫理研修計画

次年度研究倫理研修会は、実施概要に基いて行い、4月に初回研修、9月にアドバンス研修を実施する。4月の初回研修の対象は、新任教員だけでなく、申請の経験がある教員に対しても広く呼びかける。

2. 研究倫理審査委員研修の実施

研究倫理審査委員会の充実を図り、適切な審査が行えるよう、委員向けの研修会の実施を検討する。

3. 研究倫理審査委員会開催日

次年度の研究倫理審査委員会開催日は、平成26年4月24日、6月26日、9月4日、10月23日、12月18日、平成27年2月26日とした。（2014年3月13日開催の拡大教授会で周知）

4. 情報・統計分野の委員のリクルート

本委員会では情報公開、個人情報取り扱いの機会が多いため、また看護以外の分野の知見や統計学の知見が有益となることから、次年度以降の本委員会に情報担当教員を含めることを委員会提案とし、小幡委員から教授会に提案することとなった。

5. 倫理審査の監査

倫理審査の監査制度の必要性について検討する。

6) 保健衛生安全管理委員会

構成

委員長：深谷 智恵子

委員：大石 昌也、工藤 由美、渡邊 八重子、栗栖 千幸、鶴沢 淳子、
松丸 直美、古谷 直子（外部委員）

担当事務：間宮 庄治、松村 広典

会議開催状況

開催回数：全 11 回 （別紙 1 参照）

審議事項・活動内容 （別紙参照）

今後の対応・課題

1. 学生保健について

小児感染症をはじめとする感染症予防のために全学生にワクチン接種が必要である。特に小児感染症に関しては過去の接種歴によって追加接種が個々に違うため、保健業務を煩雑にしている。亀田病院での実習に先立って抗体価証明書の提出が義務付けられている。

百日咳ワクチンに関しては、今年度からの実施で 2 年生対象に説明会を行ったが、任意接種ということもあって 2/3 の学生が接種するのみとなった。

インフルエンザ、ノロウイルス対策については、集団感染しないようウイルスの学内持ち込み防止対策として電話連絡システム（報告ルート）を作成し実施した。今後も継続できるよう全学生・教職員への徹底が課題である。

2. 保健室業務について（添付資料参照）

学生数の増加に伴い学生の健康管理（データ）および保健室業務が多彩・複雑となっており、委員会の委員が片手間でできる業務内容ではなくなっていることを学長・理事長へ報告した。その結果、次年度より保健師が 1 名非常勤採用となった。

今後は、学生保健及び保健室業務の実施要員である保健師に業務分担を依頼していく予定である。

3. 防災について（別紙 2 参照）

学生個々の防災教育、「避難警報時の自己判断、避難経路の認識、避難グッズの常備、安否情報の確認」などが課題である。また、病院実習の場合、学生の避難方法についても指導が必要になる。

別紙 1 平成 25 年度 保健衛生安全管理委員会開催状況

平成 25 年 4 月 25 日 (木) ~平成 26 年 3 月 11 日 (火)

回数	開催日時	報告及び審議事項
第 1 回	平成 25 年 4 月 25 日 (木) 10 : 00~11 : 30	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 亀田医療大学保健衛生安全管理委員会規則改定の確認について 2. 平成 25 年度 活動計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 防災・防火訓練、防災教育について <ol style="list-style-type: none"> ① 合同津波避難訓練について ② 学生の安否確認について 2) 学生の健康管理について <ol style="list-style-type: none"> ① 保健室年間計画 ② 保健室利用の教職員の対応 ③ 抗体価・予防接種実施日通知書 ④ 学生の受診について 3. 委員の役割分担について 4. AED の設置場所の追加について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生相談室の利用状況について 2. 健康診断の実施後報告について 3. 百日咳ワクチン接種に関する説明会について
第 2 回	平成 25 年 5 月 15 日 (水) 10 : 00~11 : 30	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の病院受診に関する対応について 2. 「大学生におけるスポーツによる傷害」に関する講義の実施について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健室ワーキング実施後報告 2. 校医との話し合いについて 3. 予防接種関連について
第 3 回	平成 25 年 6 月 5 日 (木) 13 : 00~14 : 15	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の「出席停止」時の報告ルートについて 2. 健康診断結果「肥満」への対策について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生相談室の利用状況について 2. 健康診断結果について 3. 学生の病院受診に関する報告
第 4 回	平成 25 年 7 月 4 日 (木) 10 : 00~11 : 20	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 津波避難訓練の実施後アンケートについて <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生相談室の利用状況について 2. 「大学生におけるスポーツによる傷害」講演会の出席状況について <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期の予定について

第5回	平成25年 9月13日(金) 9:00~10:30	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度後期の防災について 2. AEDの設置場所について 3. 感染症対策について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 津波避難訓練アンケート結果について 2. 第17回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会保健・看護分科会千葉支部会参加報告について
第6回	平成25年 10月23日(水) 11:00~12:00	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度健康診断・予防接種予定について 2. 防災避難訓練について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インフルエンザ予防接種の実施を終えて 2. 学内ノロウイルス対策について 3. 大学祭の救護担当について 4. 学生相談室の利用について 5. 感染症対策講演会を終えて
第7回	平成25年 11月25日(月) 14:00~15:20	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 亀田医療大学防災計画について 2. 有事の際の夜間・休日緊急連絡網について 3. 学生便覧の加筆・修正について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災避難訓練実施報告 2. インフルエンザの対策について 3. 次年度の健診・予防接種に関するクリニックからの返答 4. 学生相談室の利用について
第8回	平成25年 12月16日(月) 14:00~15:20	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度学生便覧の修正・追記項目について 2. 「感染症報告書」の修正・追記項目について 3. インフルエンザ・感染性胃腸炎対応の修正・追記について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度の健診・予防接種に関するクリニックからの返答 2. 津波対策用キーボックスの取り付けについて 3. 市内大学近隣の医療機関リストについて
第9回	平成26年 1月20日(月) 14:00~14:50	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症フロー(教職員用)について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 嘔吐物処理キットの設置について 2. 津波対策用キーボックスの開錠番号について

別紙 2 保健衛生安全管理委員会（防災関連）年度報告

1. 津波避難訓練（7/3）、防災避難訓練（10/30）を行った。
2. 津波避難訓練後、学生及び教職員アンケートを行い集計検討した。
3. 簡易防災マニュアルを作成した。
4. 津波避難対策として、常時、本館屋上・学生会館屋上や備蓄倉庫へ避難等できるように各所の鍵を暗証番号式キーボックスへ収納し各所扉付近に取り付けた。
5. 本館屋上入口の保管庫と学生会館備蓄倉庫へ災害対策用備蓄物品を整備した。
6. 鴨川市より災害用真空パック毛布・備蓄食料・備蓄飲料水の保管依頼につき学生会館備蓄倉庫へ保管した。

以上

7) 入試委員会

構成

委員長：米林 喜男

委員：小幡 光子、吉川 一枝、新田 静江、休波 茂子、新居 富士美、
久保 幸代、石川 健二（1月31日まで）

担当事務：碓井 豊一、宮本 聖子

会議開催状況

開催回数：7回

審議事項・活動内容

亀田医療大学（看護学部看護学科入学定員 80 名）は、開学した平成 24 年 4 月の入学者は 85 人、推薦入試と大学入試センター試験利用入試にて選抜した平成 25 年 4 月には 1 名欠員の 79 名が入学した。この結果を受け、教授会および入試あり方検討会にて入試方法の見直しがなされ、指定校推薦入試、公募推薦入試、大学入試センター試験利用入試に加えて、一般入試における個別学力試験の採用、推薦入試の推薦基準の調査書評定値を下げる、推薦入試の指定校数の増加、大学入試センター試験利用入試の必修科目数の減少を図ることが決定された。また、広報活動として、大学案内資料の刷新、入試情報およびオープンキャンパスチラシの作成、大学ホームページ活用による入試関連情報の提供、進学情報誌の活用、教職員による高校訪問、大学説明会の開催、進学説明会への参加などにより広報活動の充実が図られることとなった。その結果、平成 26 年度入試は、定員の約 3 倍の受験者数を確保することができ、平成 26 年 4 月の入学者は 91 名となっている。

今後の対応・課題

平成 27 年度入試は、平成 26 年度に実施した選抜方法を継続する一方で、入試方法の一部の見直しが決定している。

1. 指定校推薦入試における指定校推薦基準の作成
2. 公募推薦入試を指定校推薦入試と同日実施することによる早期受験生確保
3. 面接室増加による面接待ち時間の短縮をはかることでの受験生負担の軽減

8) 広報委員会

構成

委員長：東 晴美

副委員長：米林 喜男

委員：宮本 眞巳、眞野 響子、小林 美奈子、佐久間 夕美子、鶴沢 淳子、
高橋 道明

担当事務：羽田 洋一、小原 美乃里

会議開催状況

開催回数 9 回

審議事項・活動内容

1. 年間活動状況

今年度は、入試委員会から学生募集も含む大学広報に関する委員会として広報委員会
が新たに発足。それに伴い、亀田医療大学広報委員会規則（平成 26 年 2 月 1 日制定）を
作成。

役割は、「総括」、「オープンキャンパス」、「各種媒体対応、大学案内・広報紙の製作、
ホームページ」、「高校訪問、業者ガイダンス、出張講義」とし、各担当者を配置し、活
動。

2. オープンキャンパス

A コース（看護体験）は、7 月 13 日（土）・8 月 3・24 日（土）の 3 回、B コース（病
院見学）は、8 月 4 日（日）・19 日（月）・27 日（火）の 3 回実施。参加者総数は 402 名
（内受験対象者 223 名）であった。

大学祭でのオープンキャンパスを今年度から実施。受験生は 13 名だったが好評であっ
た。

高校教諭のためのオープンキャンパスは、5 月 10 日（金）・9 月の 2 回実施。5 月は 12
校、9 月は 1 校の参加であった。

オープンキャンパス個別面談内容チェック票作成した。

3. 各種媒体対応、大学案内・広報紙の製作、ホームページ

ネット媒体（進学ネット：リクルート、マナビジョン：進研アドなど 545 万円）より
も、紙媒体（進学辞典：リクルート、テレメール：fromページなど 781 万円）の予算
が上回っている。

大学広報誌は、平成 25 年 4 月 1 日の第 1 号創刊。平成 26 年 4 月第 2 号発行予定。

ノベルティグッズとして、クリアファイルと葉書の作成。今後、オープンキャンパス用のボールペン、不織布バッグなど検討中。財務が関連している。

大学案内は、平成 25 年度版を 6 月に完成。平成 26 年度版は、業者との契約が 2 年のために大きな変更が出来なかった。

ホームページは、外部業者に委託にて、大学内で随時更新できない。

4. 高校訪問、業者ガイダンス、出張講義

高校訪問は、6～7 月は指定校推薦獲得のために千葉 29 校、茨城 4 校、宮城 14 校、岩手 8 校の計 55 校訪問。9～11 月は公募推薦獲得のために千葉 55 校、東京 21 校、茨城・福島各 14 校、静岡 12 校、埼玉・群馬・青森各 10 校など、計 190 項訪問。千葉、茨城、福島、東北の高校は、感触がよく、毎年訪問する。宮城県、岩手県、静岡県は、訪問対象を選定して訪問。

業者ガイダンスは、33 会場に参加し、参加者は 181 名で、会場により参加者の数が異なった。高校ガイダンスは、看護系を志望する生徒が多く、特に千葉県、茨城県、福島県の高校は強化することも必要である。

出張講義は、大原高校（1 年生:16 名）、君津高校（1・2 年生:37 名）、安房拓心高校（2 年生 21 名）の 3 校からの依頼で実施した。1・2 年生を対象とした依頼のため、進路選択に役立つ内容とした。看護系と福祉系を迷っている生徒、医療系のうち検査技師、理学療法士、看護師で迷っている生徒などが混在していた。

今後の対応・課題

1. オープンキャンパス

- ・来校者および受験生増をめざしたオープンキャンパスの内容を検討する
- ・食事の選択性または有料化する
- ・学生ボランティアをアルバイトとする

2. 各種媒体対応、大学案内・広報紙の製作、ホームページ

- ・紙媒体からネット媒体へ移行への検討
- ・大学広報誌の内容、ページ数、紙質、発行回数など検討
- ・ノベルティに関する取り扱いの検討
- ・ホームページの更新作業を大学内で行えるのか検討

3. 高校訪問、業者ガイダンス、出張講義

- ・今年度は、推薦対象者獲得に理事長にも訪問して頂いたが、次年度以降の訪問でどうするのか検討。
- ・推薦入学の学生からの情報を、指定校先に伝え、継続した推薦枠を確保できるように

検討。

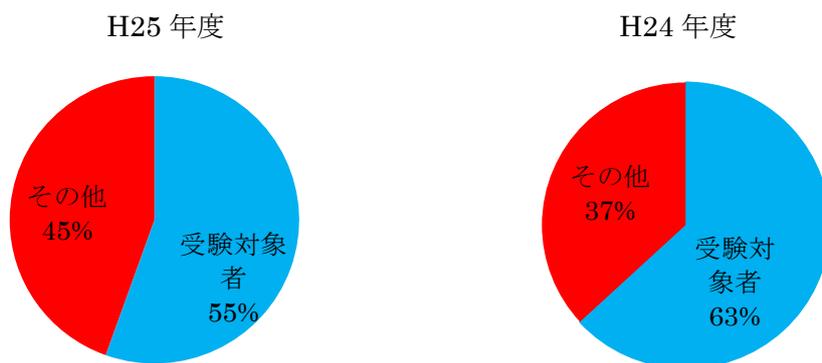
- ・オープンキャンパスや資料請求のあった高校には、請求の状況を訪問先に伝え、継続した志願者を確保できるように検討。
- ・東北地方は、訪問の時期および訪問方法を検討。
- ・参加者の多い会場に絞って参加するのか検討。
- ・高校ガイダンスの教員の参加について検討。
- ・看護の魅力をいかにして伝え、今後の募集に直結できるか検討。
- ・オープンキャンパスや学祭への参加を呼び掛け、生徒の興味関心を高める授業を実施。
- ・全学的に取り組み、特に千葉県内の高校には積極的に働きかける。

参考 オープンキャンパス実施結果

受験対象者（生徒）向けオープンキャンパス
開催日と参加者

日付	7/13 (土)	8/3 (土)	8/4 (日)	8/19 (火)	8/24 (土)	8/27 (火)	計 a	(参考) 平成24年度計 b (全8回実施)	対前年度 比 a/b
コース	A	A	B	B	A	B			
受験対象者	25	59	30	30	53	26	223	270	82.6%
参加者計	47	104	62	51	89	49	402	475	84.6%
受験対象者の割合	53.2%	56.7%	48.4%	58.8%	59.6%	53.1%	55.5%	56.8%	

※ A 大学内での選択イベント B 実習病院見学



9) 図書・情報管理委員会

構成

委員長：米林 喜男

委員：足立 智孝、佐藤 真由美、有家 香、金澤 貴子、柚山 香代子
堀 強、稲葉 京子、立野 幸子

担当事務：立野 幸子

会議開催状況

開催回数：11回

審議事項・活動内容

1. 図書館

- 1) 図書館開館スケジュールの確認
- 2) 設備やセキュリティについての改善（掲示板・瞬快ソフト導入）
- 3) H24年度年報掲載文確認
- 4) 他館借用資料の閲覧方法検討
- 5) 督促の運用検討
- 6) 学習・研究支援の報告・確認
- 7) 図書館主催の催事検討
- 8) 小展示「5月12日看護の日——ナイチンゲール生誕日」（5/8-31）
- 9) 寄贈本の配布・廃棄方法の確認
- 10) 一般学外者・実習指導者研修者の利用方法検討
- 11) 平成26年度図書館予算の確認
- 12) 雑誌最新号以外の貸出期間を3日間に改定検討
- 13) 「図書館利用規程」の改訂

2. 選書

- 1) 選書・購入方法の運用確認
- 2) 図書館資料の選書（購入・寄贈）
- 3) 継続購入図書の検討
- 4) 大学図書館コンソーシアム（JUSTICE）に参加（2014年1月～）
- 5) 教員研究費・科研費購入
- 6) 資料の大学資産としての取扱い確認

3. 情報管理

- 1) 実習で利用するカルテの閲覧についての手引きを作成
- 2) 教職員向け e-ラーニング講習の企画検討
- 3) プライバシーポリシー案（大学の個人情報保護方針）について検討

10) 国際交流委員会

構成

委員長：新田 静江
副委員長：足立 智孝
委員：工藤 由美、碓井 豊一、小原 美乃里
担当事務：羽田 洋一、小原 美乃里
オブザーバー：クローズ 幸子

会議開催状況

開催回数：不定期に3回

審議事項・活動内容

第1回委員会（平成25年6月17日）

- ・ 委員会のオブザーバーとしてクローズ学長に参加を要請した。
- ・ 国際交流委員会規則（案）を作成し、第7回教授会にて承認を受けた。
- ・ 年間活動計画として、亀田メディカルセンターが交流している国外の大学に関する情報と学生の短期留学に関する情報を収集することとした。
- ・ 本学が目指すグローバル化について審議し、「文化背景や特性の異なる多様な人々を理解し、交流する能力を養う」と解釈することが了承された。

第2回委員会（平成25年7月17日）

- ・ 講演会「国際交流活動推進と考慮すべき危機管理対策」に出席した委員から、大学として国内外の活動に関わる危機管理体制の構築の必要性が報告された。委員会は、大学組織としての危機管理体制について教授会の審議事項として提出した。
- ・ 昨年度学生委員会で作成した学生の「海外渡航届」の様式を検討し、渡航・帰国スケジュールの加筆を学生委員会に提言することとした。

第3回委員会（平成26年2月10日）

- ・ 足立委員を副委員長に選出した。
- ・ 委員会規則一部改正案を作成し、教授会にて承認を受けた。
- ・ クローズ学長より科研費の安全管理のプロジェクトにて渡米した際にオハイオ州の **Lourdes University** の教員らと交流し、大学間交流の可能性について話題に上ったことが報告され、当面は教員レベルで交流し、完成年度以降に大学間協定を検討していくための基礎作りをするという方向性が確認された。
- ・ 文部科学省の事業「スーパーグローバルハイスクール」への申請予定高校からの要請があり、講義の協力を承諾したが、その後不採択という結果報告を受けた。

今後の対応・課題

1. 完成年度以降における大学間協定に向けた準備が課題である。
2. 教授会にて審議される大学組織としての危機管理体制づくりにおいて、海外研修などの国外活動に伴う危機管理体制に関する具体的な内容を提言する必要がある。

11) 教務・カリキュラム委員会

構成

委員長：休波 茂子

委員：恵美須 文枝、小幡 光子、吉川 一枝、新田 静江、宮本 眞巳、
米林 喜男
石川 建二（1月31日まで）

担当事務：碓井 豊一、安田 紫音（6月17日より）

会議開催状況

開催回数：14回

審議事項・活動内容

【教務関連】

1. 前期・後期ガイダンスの実施
2. 履修登録の実施
未履修者の対応
3. 中間・定期試験、再試験の実施
試験不合格者（再試験者）の検討
4. 成績評価と単位認定、進級判定
5. ゲストスピーカーの取り扱い要項の検討
6. 非常勤講師の検討
 - ・新規非常勤講師の検討：人間機能学、スピリチュアリティ、社会福祉学
 - ・平成26年度非常勤講師の検討
7. 平成26年度学年歴の検討
8. 平成26年度学生便覧の検討
9. 平成26年度シラバスの検討
10. 平成25年度時間割の調整と検討
11. 学籍異動（休学・退学・復学）の対応
12. 看護実践能力修得評価表の検討
13. 進級判定についての検討
14. その他
 - ・成績通知書の検討、学生の授業態度への指導など

*平成25年度の課題に対する対応

1. 円滑な講義・演習・実験の実施
2. 学生の単位修得への指導と支援（特に単位未修得の学生への指導）

単位未修得の学生については、拡大教授会で報告し、チューターに面接により指導をしてもらうようにした。

3. 非常勤講師による円滑な授業実施への支援
学生による授業評価が極端に低い非常勤講師には面接を行って授業改善を求めた。
4. 学生の主体的な授業参加への支援（授業態度の育成）
科目担当教員より主体的な授業参加への支援を行ってもらった。
5. 進級への支援（2年次進級判定）
休学者4名（他1名）の計5名が留年となった。

【カリキュラム関連】

1. 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲの検討
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲを連動させ、助教以上すべての教員がゼミナールを担当することとした。
2. カリキュラムの一部変更（文科省申請）

今後の対応・課題

【教務関連】

平成26年度の課題

1. 円滑な講義・演習・実験の実施
2. 学生の単位修得への指導と支援
特に単位未修得の学生への指導と支援
3. 非常勤講師による円滑な授業実施への支援
4. 学生の主体的な授業参加への支援（授業態度の育成）
5. 進級への支援（2年次進級判定）
6. 非常勤講師オリエンテーション（説明及び交流会）の開催の検討
7. 休学者（復学した）への学習支援
8. GPA制度（成績評価制度）の導入

【カリキュラム関連】

*平成26年度の課題

カリキュラムについては、学生への教育効果から検討した結果、一部変更を文科省申請した。教務・カリキュラム委員会にワーキンググループを設置し、平成28年度以降のカリキュラムの修正・変更に向けて計画的に検討することとした。以上のことから、平成26年度は、以下の課題とする。

1. 基礎ゼミナールの評価

2. 学生への平成 26 年度カリキュラムの変更についての説明（ガイダンス）
3. 研究ゼミナール I・II の検討
4. カリキュラムに関するワーキンググループの設置と検討

12) 臨地実習委員会

構成

委員長：新居 富士美

委員：休波 茂子、宮本 眞巳、東 晴美、眞野 響子、工藤 由美、久保 幸代、
栗栖 千幸、佐藤 真由美、柚山 香世子

担当事務：碓井 豊一、安田 紫音（6月17日より）

会議開催状況

開催回数：11回

審議事項・活動内容

1. 各領域の看護学臨地実習の方法（ローテーションなど）の検討と決定
2. 新規実習施設の開拓と準備
3. 亀田医療技術専門学校との実習施設（亀田総合病院）の調整
平成26年度 領域別実習ならびに基礎看護学実習に向けて
4. 看護学臨地実習共通指導要項の改訂
5. 実習調整会議の施行（亀田医療大学-亀田医療技術専門学校-亀田総合病院看護部）
6. 実習環境の整備（H28年度までは現2号館を使用決定）
7. 選択科目実習調整会議の施行
8. 臨地実習におけるセキュリティカードの件（学生証への組み入れの交渉）
9. ポートフォリオ的な要素を含んだ看護技術評価リストの提案と検討の開始

今後の対応・課題

平成26年度は領域別実習が開始となる。亀田総合病院の大幅な情報システム変更を受けて、患者個人情報収集の手順等の確認やマニュアル修正も課題である。領域別実習、基礎看護学実習を終えて実習施設との「実習報告交流会」を年度末に開催し、実習指導の充実を図る機会を設ける。「選択科目実習」「看護の統合と実践実習」の準備（時期、目的、学生受入数や選択の方法等）を開始し、滞りなく決定を要する。領域別実習終了後に国際看護の研修が予定されており、実習中から学生の健康/体調管理面等に注意が必要である。

平成26年度の課題を以下の内容とした。

1. 実習調整会議（大学-専門学校-安房医療福祉専門学校-亀田総合病院看護部）の開催
2. 実習環境（亀田総合病院）の整備、臨地実習用マイクロバスの運用方法の検討
3. 看護学臨地実習共通指導要項の見直しと再修正
4. 電子カルテ関係および患者個人情報の収集に関連した手順書やマニュアル修正

5. 「選択科目実習」「看護の統合と実践実習」に向けての準備
6. 平成 27 年度 各領域の看護学臨地実習の方法(実習ローテーションなど)の検討
7. ポートフォリオ的な要素を含んだ看護技術評価リストの作成と活用の実際
8. 臨地実習における学生証（臨地実習におけるセキュリティ関連）の活用方法や実際
9. 「実習報告交流会」の開催

13) 学生委員会

構成

委員長：吉川 一枝

委員：大石 昌也、工藤 由美、佐久間 夕美子、渡邊 八重子、小林 美奈子、
松丸 直美、石川 健二（1月31日まで）

担当事務：松村 広典

会議開催状況

開催回数：12回

審議事項・活動内容（抜粋）

1. 学生委員役割の検討について

以下6項目の学生支援について教員窓口（担当）をつくり活動した。①自治会、②部・サークル活動、③学生住宅、④イベント、⑤ガイダンス、⑥大学祭。その内容は委員会で報告し共通理解を図った。

2. 学生自治会の活性化

窓口となる教員を2名配置し学生自治会メンバーと意思疎通を図り、自治会運営や行事、部・サークル予算や大学祭運営について助言を行った。また、部・サークル活動に関する規則、顧問の役割および責任について検討した。

3. 学生専用住宅居住者へのガイダンス実施

全体ガイダンス以外に、シェアハウスおよび学生専用住宅等居住者毎にガイダンスを実施し、地域で生活するためのルールやマナーについて指導した。年度当初には地域や学生からの苦情が見られ、その都度掲示・口頭で注意喚起を行った。後期はほとんど問題がなかった。

4. 学生会館使用規定の検討

学生会館完成に伴い（学生会館内に自治会・部室等学生が使用できるスペースができた）使用規定を検討した。

5. チューター制導入

チューターの役割および学年主任の役割を明確にした。学生面談に使用する面談用紙を作成し、学生の個別資料を整えた。次年度チューターグループの編成を行った。チューター制の評価については、平成27年度4年生のチューターの在り方を含め次年度検討課題となる。

6. 学生生活実態調査

全学生対象に実施した。本学学生の実態を把握し学生支援に繋げるための資料となる。学生委員会においてもこの結果を分析し支援に繋げていくことが課題となる。新

年度4月には報告できる予定である。

14) 就職支援・国家試験対策委員会

構成

委員長：真野 響子

委員：小林 美奈子、佐藤 真由美、有家 香、金澤 貴子、碓井 豊一

担当事務：碓井 豊一、松村 広典

会議開催状況

開催回数：8回

審議事項・活動内容

1. 委員会運営

年間計画、模擬試験、進路支援室の設置、郵便物の取扱い、WG年間計画、模擬試験監督要領、進路支援室の整備、進路希望調査、東京アカデミー主催国家試験対策教員セミナー参加、進路希望調査結果、後期ガイダンス計画、進路支援室の整備、亀田総合病院就職ガイダンス計画、学生便覧、第2階模擬試験、進路に伴う欠席の取扱い、学生個人ファイル、平成26年度活動計画、委員会規則の修正、4月ガイダンス計画、平成25年度委員会活動の評価、進路支援室の開設

2. 就職支援活動

・就職情報の整備

事務局と連携し、看護師募集に来訪された医療施設の方々に対応した。
医療施設等から送付されてきた採用案内を、進路支援室で整備した。

・進路希望調査

2年生に進路希望調査を実施し、個別ファイルを作成した。

・就職ガイダンス

2年生に亀田総合病院の就職ガイダンスを実施した。

また、亀田総合病院の担当者と4年次の採用試験までの予定を合議した。

3. 国家試験対策

・国家試験情報の提供

5月に改定された国家試験出題基準について、全教員へ情報提供を行った。

・模擬試験の実施

2年生を対象とした2回の模擬試験を実施した。参加者は第1回が69名、第2回が60名であり、全員参加とはならなかった。

・学生委員の募集

学生主体で取り組むことを目的に、2年生に学生委員の募集を行った。学生委員には活動内容を説明したが、主体的な活動までには発展しなかった。

今後の対応・課題

1. 委員会運営

1回/月程度開催したが、審議事項が少ない場合や、緊急に報告しなければならない事項などが発生し、メール連絡で済ませたことがあった。WGの自主的な活動を促すためにも、計画的に運営し、議題がWGから挙げられるようにしていくことが望ましい。進路支援室については、就職と国家試験だけではなく、進学に向けての資料を整備する必要がある。

2. 就職支援活動

就職関連の情報については、進路支援室で閲覧できるような整備が行えた。また、看護師採用に関連した来訪者の対応を事務局と連携し実施する中で、亀田総合病院のガイダンスが実現したことは、大きな成果である。進路希望調査により、亀田総合病院への就職希望が最も多い結果ではあったが、学年進行とともに進路希望も変化することが予想されるため、確実な就職へ結びつくための支援策が必要となる。亀田総合病院と連携を強化し、学生自身が亀田総合病院に望んで就職できるような環境整備にむけての活動が必要である。

3. 国家試験対策活動

国家試験の出題基準改定、模擬試験の状況などについては、発表直後に全教員へ周知することができ、一部の教員からは授業に活用したいとの反応があった。模擬試験の必要性については、学生へ説明したが、費用がかかること、日程の問題などがあり、全員参加とはならなかった。参加率をあげ、成績上昇に結びつけることが今後の課題である。また、学生委員を募集したが、自主的な活動まで至らなかった。模擬試験代金の一部補助や学生自身が国家試験に向けて主体的に取り組むことができるような体制づくりが今後の課題である。

15) FD (SD)・ユニフィケーション支援委員会

構成

委員長：小幡 光子

委員：新田 静江、東 晴美、新居 富士美、久保 幸代、渡邊 八重子、
高橋 道明、松丸 直美、瀧口 真穂 (2月28日まで)

事務担当：平川 弘一

会議開催状況

開催回数：13回

審議事項・活動内容

1. 実習指導者研修会の企画・運営

- ・前年度決定していた、H26年度後期から始まる領域実習に向けた「実習指導者研修会」開催に向け、看護部と連携しながら、研修会の具体的なプランの検討を行い、開催時期・費用・対象等実施に向けての様々な問題を検討し、実習要項を作成した。H26年3月上旬に、亀田総合病院を含めた19施設に研修会の案内を発送し、6月開催に向け準備を整えることができた。

2. FD (SD)・ユニフィケーション支援委員会研修会の開催

- ・テーマ：「看護学教育における臨地実習とは」

回数	月日・時間	概要	参加人数
1	8/30(金) 9:30~13:40	・学生のレディネス ・これまでの授業での学生の状況(足立、大石、休波) ・「学生の学び」について討議	26名 (2名: 26年度)
2	9/1(日) 9:00~18:00	「臨床実習を通じた成人学習者としての学び」 ー教員と実習指導者の協働ー 前川講師(甲南女子大学教授) *外部にも公開	75名 (24名)

3. ユニフィケーション人事交流(出向)等の手続きの見直し

- ・ユニフィケーションにおける人事交流(出向)手続見直しを行い、申請手続きを整えた。
- ・ユニフィケーション活動申請の対象とする事項を、鉄蕉会・太陽会での講義・講演、実習等に付随しない独自の研修及び委員会活動に限定し、研究活動は含めないこととした。また、現行のユニフィケーション人事交流手続が煩雑であり、有効に機能していないため、手続の流れを整理簡素化した。

4. 看護部とのユニフィケーション連絡会の主な議題・報告事項 /開催回数：8回

- 1) 実習指導者研修会の検討
- 2) 看護部の研修会への講師派遣（敬称略）
 - ・看護過程（休波）
 - ・看護教育（高橋）
 - ・看護倫理（小幡）
 - ・看護研究（小幡）
- 3) 亀田地域連携室連絡会（新田、宮本、栗栖）
- 4) 滋賀医科大学医学部附属病院 看護臨床教育センター視察報告（久保）
- 5) タイムリーな情報交換

5. その他

4. で記した以外の活動については、活動実績一覧にまとめているところであり、追ってフォルダーを参照のこと。

今後の対応・課題

1. 3法人ユニフィケーション連絡会を、H26年度早期に開催し、2年間の総括と今後の方針について協議する。
2. 3期目に向け、委員会メンバーが役割をもち、主体的に活動の企画・運営を担っていけるよう担当を決めた。このことはメンバーのFDでもあり、次年度はより活発に活動しながら評価していくことを確認した。

実習指導者研修会	久保、渡邊、高橋
FD企画	東、新居、松丸

16) 研究支援委員会

構成

委員長：小幡 光子

委員：恵美須 文枝、宮本 眞巳、大石 昌也

担当事務：平川 弘一

会議開催状況

開催回数：6回

審議事項・活動内容

1. H25 年度に新規に委員会を設立、第1回会議において下記について決定し活動を開始した。
 - ・研究支援委員会規則（案）の作成
 - ・総合研究所との関係について：組織的な位置づけについて議論
 - ・研究支援ニーズ調査の実施
 - ・研究支援委員会として実施する研究支援について検討し、科研費や民間助成等資金獲得のための情報発信や研究計画を作成するための支援体制づくり等に取り組むことを確認
2. 大学紀要の発行について
学長の意向を受けて、準備のための意見交換を行い、発行する方向では一致したが、具体的な準備については教授会や総合研究所において議論することとなった。
3. 研究交流会の開催と「研究交流会申し合わせ」の作成
 - 1) 「研究交流会申し合わせ」は正式文書として規程集に掲載することになった。
 - 2) 教員間の研究交流および研究マインドの涵養を目的に研究交流会を開催
(平成26年2月20日 13:00~17:00)
終了後の教員評価（資料別紙）はおおむね良好であったが、発表スタイルの違い等により、「目的が不明確である」「もっと焦点を絞った交流がしたい」との評価・要望があった。
4. 学長裁量経費特別研究費申請について
 - ・2件の申請があり、検討の結果、全会一致で申請を許可すべきと決議し、亀田医療大学学長裁量経費の配分方針第5条にもとづき、学長に報告した。
なお、委員より上限10万円と事前に決定してしまうと柔軟な使用ができないので、撤廃すべきとの意見が出された。この点について、委員長より学長に意見があった旨を併せて報告した。
5. 科研申請のための支援について

- ・ 申請書作成に関するサポート → 結果：申請数7件、採択1件
- ・ 科研取得者の協力による申請書見本ファイルの図書館閲覧

今後の対応・課題

- ・ 研究交流会の形式や内容についての検討
- ・ 学長裁量経費の年度早期の公募への要望を学長に提起
- ・ 研究支援の在り方の継続的な検討

(16) 総合研究所運営委員会

沿革：

- ・平成 25 年 3 月：学校法人鉄蕉館と医療法人鉄蕉会が協力して研究活動を向上するため、亀田医療大学に亀田医療大学総合研究所を設立することが提案され、その設立が学校法人鉄蕉館理事会にて、承認された。
- ・平成 25 年 4 月 1 日：亀田医療大学総合研究所が発足し、既存の医療法人鉄蕉会の臨床研究支援室が亀田医療大学総合研究所の傘下で鉄蕉館の研究活動を支援することとなった。亀田医療大学総合研究所の組織図は次頁のとおりである。

亀田医療大学



亀田
メディカル
センター

亀田医療大学 総合研究所

運営委員会

- 審議事項
- ・事業計画
 - ・予算及び決算
 - ・客員研究員選考
 - ・その他必要事項

- 運営委員会
- 所長(=委員長)
研究員 若干名
大学の専任教員 若干名
学外の学識経験者 若干名
臨床研究支援室室長

- 研究所
(置く)
- ・所長 1名
 - ・研究員 ?名
 - ・事務職員 ?名
- (置くことができる)
- ・客員研究員 ?名
 - ・研究補助者 ?名
 - ・その他必要な職員

研究・調査

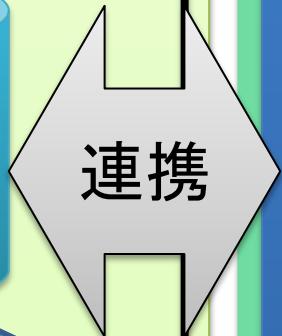
資料収集・整理

成果の刊行

研究会・講演会

その他事業

臨床研究部門



臨床研究支援室

- 臨床研究支援室
- 室長:公募中 片多Drが卒研センター長と兼務中
医療統計専門家:非常勤で検討中
非常勤職員:星野副室長 事務職員;公募中

地域連携支援部門(仮称)

その他時限的プロジェクトなど

亀田病院臨床研究支援室運営委員会

人の動き

活動

人員構成

構成

委員長：クローズ 幸子（学長兼務）

委員：恵美須 文枝、小幡 光子、足立 智孝、佐藤 真由美

夏目 隆史（学外の学識経験者）、片多史明（臨床研究支援室室長）

担当事務：平川 弘一

会議開催状況

開催回数：2回

審議事項・活動内容

第1回 亀田医療大学総合研究所運営委員会（平成25年7月10日）

報告事項：1. 臨床研究支援室室長による当該支援室の沿革、副室長の就任、活動報告、研究所発足後の役割

審議事項：1. 総合研究所規程の確認（すでに教授会で承済み）

2. 総合研究所の機構図と運営委員会の位置づけ

3. 運営委員会の役割と基本方針（委員会構成、委員の任期、予定数等について）

4. 研究員の選任

5. 研究所の事務管理役割

6. 病院及び大学の研究倫理委員会と総合研究所の関係

7. 客員研究員2名の推薦の承認

8. 中期及び今年度の計画

第2回 亀田医療大学総合研究所運営委員会（平成26年3月19日）

報告事項：1. 臨床研究支援室の2013年度業務報告と2014年度活動計画

2. 客員研究員の取り扱いに関する規則

平成25年6月27日制定

3. 客員研究員2名の活動状況

審議事項：1. 客員研究員申請3名の推薦の承認

2. 大学の専任教員による臨床研究支援室の活用

平成26年度活動予定：

1. 亀田医療大学総合研究所運営委員会の開催（2回/年及び必要に応じて開催）

2. 客員研究員の登録の増加

3. 臨床研究支援室の事務体制の強化

4. 大学教員の支援室主催各種講義等への参加

亀田医療大学総合研究所臨床研究支援室の活動内容（平成 25 年度）

支援室の構成：

室長：片多 史明（亀田総合病院神経内科部長代理、卒後研修センター長
兼務）

副室長：星野 絵里（非常勤）臨床研修

平成 25 年度 業務報告：

亀田医療大学臨床研究支援室活動の基軸を 1. 教育、2. コンサルテーション、3. 管理・運営、4. データ管理と定め、業務を執行。

1. Education Unit

- 1) 初回講習：厚労省で義務化されている臨床研究を行うための基礎知識のための講習（3回、141名参加）
- 2) 臨床研究セミナー：臨床研究に関する知識習得のためのセミナー（1回 64名参加）
- 3) 統計学講座：計 6 回、各回参加者平均 32 名）
- 4) 臨床研究 5 人部会：若手医師を対象としたリサーチクエスチョン設定から論文執筆までの実践ワークショップ（5名参加）
- 5) 感染症科ジャーナルクラブへの支援（2回開催）
- 6) 呼吸器内科リサーチミーティングへの参加・アドバイス（1回）
- 7) クリニカル・リサーチ・トレーニング・コース(CRTC、座学 2 回)
- 8) 院外研究会での講演
 - ・胆道閉鎖症早期発見に関する研究会順天堂大学：星野絵里、コメンテーター）
 - ・「小児腎臓領域におけるレジストリーを活用した疫学研究導入について」第 4 回小児腎臓中堅研究会東京医科歯科大学疫学セッション

2. Consultation Unit

面会によるコンサルテーション、計 52 件（各 1 時間程度）、メール相談 23 件。内容は、主に、データ収集・分析後の事後相談、学会発表直前論文投稿直前のチェックが多かった。

3. Administration & Operation Unit

- 1) 感染症課の医師による RCT 前向き研究に参画・共同研究
- 2) 亀田医療大学総合研究所客員研究員の登録（2名）
- 3) 臨床研究支援室運営委員会の開催（隔月）
- 4) 亀田医療大学総合研究所運営委員会への出席と活動報告
- 5) 臨床研究講習登録制度の設定
- 6) 亀田総合病院及び関連施設における臨床研究に関する実態と臨床研究支援に関する調査を 2013 年 5 月に実施（研究責任者：星野絵里）（780 名

より回収、研究に対する興味と支援に関するニーズを確認)

- 7) 支援室の業績把握のシステム化、利益相反委員会についての調査、
- 8) 院内Webページの開設
- 9) 包括的同意文書素案作成
- 10) 利益相反委員会についての調査

4. Data Management Unit

- 1) 院内電子カルテ・システムからのデータ抽出のためのオリエンテーション

2014年の臨床研究支援室の活動予定

教育、コンサルテーション、アドミニストレーション、オペレーションの各ユニットは、昨年のプログラムを更に改善して実施予定。データマネジメント・ユニットは、アオラニ運用開始後に検討。亀田医療大学総合研究所への客員研究員登録の増加と科学研究費への応募予定。

18) 大学院プロジェクト

構成

リーダー：恵美須 文枝
サブリーダー：宮本 眞巳
メンバー：クローズ 幸子、深谷 智恵子、小幡 光子、吉川、一枝、新田 静江、休波 茂子、米林 喜男、石川 健二 (1月31日まで)、堀 強
担当事務：安田 紫音、瀧口 真穂 (2月28日まで)、平川 弘一

会議開催状況

開催回数：7回 (4/2、5/28、6/20、7/18、9/11、10/24、1/16)

審議事項・活動内容等

主な検討事項

1. 開設年次の確認(平成28年度開学)
2. 大学院設置基準の確認
3. 設置申請に向けての活動計画について
4. 開講分野・領域科目の検討
5. 社会人受け入れの対応について
6. Feasibility study の計画について
7. 入学対象者への説明会について
8. 教員資格の準備について

活動概要

1. 外部機関への情報収集
 - 1) 6/29 「看護系大学における大学院教育のFDを考える」の講演会(千葉大学)にメンバー4名が参加
 - 2) 11/19 高等教育構想開発研究所(東京)へのヒアリング2名のメンバーで実施
 - 3) 3/29 看護系大学協議会主催「専門看護師教育課程申請に向けた説明会」(大阪)にメンバー5名が参加
2. 大学院開設に対する説明会の実施
 - 1) 亀田総合病院看護部対象 3回 (9/5、10/3、10/15)
 - 2) 亀田看護専門学校生対象 2回 (10/8,10/25)
 - 3) 本学学生対象 2回 (10/1,10/21)
 - 4) 本学教員対象 1回 (9/12)
3. 学内教員への大学院準備に対する個人面談
12/中旬～12月下旬に教授以外の18名全員に実施

今後の対応・課題

1. 設置申請についての文科省への相談
2. 設置の趣旨の確認・作成
3. Feasibility study の実施
4. 研究科の学則・規定等の作成
5. シラバス・履修要綱・時間割等の作成
6. 申請に伴う外部非常勤講師の交渉等
7. 申請内容の精査・提出

19) 地域連携室

構成

委員長：宮本 眞巳

委員：渡邊 八重子、栗栖 千幸、松丸 直美、
石川 健二（1月31日まで）、堀 強

担当事務：平川 弘一

会議開催状況

開催回数：6回

審議事項・活動内容

1. 地域医療連携室の理念と目標の検討について

地域連携室の活動理念、地域連携室の活動目標 13 項目、当面の課題に対応するプロジェクト 9 項目について検討した。

2. 地域連携室の活動に関する調査の実施

各教員が地域連携に関して現在どのような活動を行われているのか、また、今後どのような活動をされたいのかを知るために調査を 9 月～10 月に掛けて実施した。

3. 地域医療連携室依頼内容について

1) 亀田総合病院地域医療支援部・地域医療連携室の地域医療連携だよりへ記事

亀田総合病院地域医療支援部・地域医療連携室の地域医療連携だより第 37 号で「地域に開かれた大学を目指して」と称して紹介記事を掲載した。第 38 号では「亀田医療大学学生によるボランティア活動」、第 40 号では「亀田医療大学大学祭」の記事を広報に依頼し、地域に開かれた大学の一部を紹介した。

2) 「安心して住める地域を作ろう今も、10 年後も 2013 年リハビリテーション・ケア文化祭」への応募依頼あり。亀田医療大学の紹介「ー地域に開かれた大学 学生の地域交流ー」を報告した。

3) 安房医療ねっと共催「川嶋みどり先生講演会」の実施

「スープよろずや花」が企画し、亀田医療大学と安房地域の医療機関の「安房医療ねっと」の共催の下、実施の準備をした。大学内では地域医療連携室が地域機関との調整部門となり、教務・カリキュラム委員会、FD (SD)・ユニフィケーション支援委員会、広報委員会の協力を得て、新年度 4 月 15 日の講演会を実施する予定である。

20) 教職員連絡会

理事長と教員、事務職員との意見交換、懇談を通じて情報を共有する場として 2 か月毎に開催。

開催状況

平成 25 年 5 月 23 日 (木)、7 月 11 日 (木)、9 月 12 日 (木)、11 月 15 日 (木)、
平成 26 年 1 月 23 日 (木)

21) 外部団体への加盟

一般社団法人 日本看護系大学協議会

一般社団法人 日本私立看護系大学協会

12. 財務

平成 25 年度収支予算は、平成 25 年 3 月 4 日開催の評議員会及び理事会において議決、その後平成 25 年 11 月 22 日開催の評議員会及び理事会において収支補正予算を議決、これに沿って適正執行した。

1) 予算収支等

財務(予算収支) 概要については、学校法人鉄蕉館として、平成 25 年度事業報告書、平成 25 年度事業計画書等を通じて、開示（HP 掲載及び事務所備え付け）しているが、亀田医療大学の平成 25 年度収支概要(結果) は以下のとおりである。

(1) 資金収入

資金収入は以下のとおりである。学年進行に伴い学生生徒納付金収入 268 百万円（対 24 年度+115 百万円）、前受金収入は 217 百万円（対 24 年度+73 百万円）となった。寄付金収入は対 24 年度 127 百万円減と予算対比 76 百万円の未達となった。一方、(財) 歯科学生母の会清算残余資産の売却収入（臨時収入）が 42 百万円となった。

科目	金額	備考
学生生徒納付金収入	268 百万円	
寄付金収入	109 百万円	
補助金収入	9 百万円	御宿町
資産売却収入	42 百万円	
上記以外の収入	48 百万円	補助活動収入（寄宿料）、入学検定料他
前受金収入	217 百万円	翌年度の学生生徒納付金等
その他の収入	556 百万円	前年度未収入金、預り金等経過勘定他
資金収入調整勘定	△154 百万円	前年度収入の学生生徒納付金、当年度未収入金等
前年度繰越支払資金	477 百万円	
総計	1,572 百万円	

(2) 資金支出

資金支出は以下のとおりである。人件費は専任教員増に伴い 362 百万円（対 24 年度 124 百万円増）となった。

学年進行等に伴い、教育研究費は 118 百万円（対 24 年度 34 百万円増）、管理経費は 88 百万円（対 24 年度 23 百万円増）となった。

(管理経費支出には一括借上げ学生アパートに係る借料（6 棟 66 室 66 人分）36 百万円が含まれているため、相対的に大きくなっている。)

施設整備費は、学生会館厨房設備、学生会館周囲外構、直営アパート 1 棟室等の整備

に係るもので134百万円（対24年度448百万円減）となった。

これらの結果、次年度繰越支払資金は301百万円（対24年度175百万円減）となり経営基盤が平成24年度末に比して弱体化した。

なお平成24年度及び25年度入学生用アパート（6棟66室）は所有者から一定条件により本学が一括借上げしてアパート居住学生のニーズに応じてきたが、26年度入学生用については諸般の事情から25年度中に所要数を確保できなかったため1棟8室については土地を長期賃貸して本学が直営整備することとし、25年度補正予算に所要額を計上した。

さらに1棟14室については、アパート整備（新営）予定者の資金繰り不調から整備予定地の農地転用申請ができなくなったため急遽、本学が長期借入金で直営整備、寄宿料で償還することとし所要額を平成26年度予算に計上した。

（本学直営アパートについても完成年度（平成27年度）までの間の施設設備整備は、文部科学大臣設置認可後の変更協議を要すること（登録免許税の非課税申請及び校地校舎増減手続きを通じて文科省からの指摘）及び着手時点において設置財源が不足していたことが判明したため、平成26年9月に特別寄付金により財源手当ての上、第2回以降の施設設備変更内容について第3回変更協議を行うこととしており、その結果、設置財源は3,410百万円（199百万円増）となる見込み。）

科目	金額	備考
人件費支出	362百万円	
教育研究経費支出	118百万円	教育に要する経費
管理経費支出	88百万円	総務・経理・学生募集・学生住宅に係る経費
その他の経費支出	18百万円	借入金返済・利息
施設関係支出	134百万円	学生会館ミズキホール設備、学生会館周囲外構、直営アパート1棟8室整備等
設備関係支出	62百万円	実験実習器具、事務用備品、什器等
その他の支出	535百万円	前年度未払金、預り金等経過勘定
資金支出調整	△46百万円	当年度未払金、前年度前払金
総計	1,271百万円	
次年度繰越支払資金	301百万円	

（3）消費収支(計算書)

消費収支は以下のとおりである。いわゆる基本金組入れ制度等は学校法人特有のもので消費収支計算書は、概ね民間企業の損益計算書に相当する。なお帰属収入に占める主たる収入の割合は、学生生徒納付金収入56.2%、寄付金収入31.7%となった。

また、教育研究経費及び管理経費は施設・設備整備に伴う減価償却費の増により前年度より増嵩した。

なお、基本金組入額は 428 百万円（対 24 年度 270 百万円減）となった。

これらの結果、当年度消費支出の部合計は 706 百万円（対 24 年度 227 百万円増）、当年度消費収入超過額は△657 百万円（対 24 年度 226 百万円減）、翌年度繰越消費収入超過額は△312 百万円（対 24 年度 656 百万円減）となり、経営基盤は 24 年度末に比して大幅に悪化した。

科目	金額	備考	帰属収入割合
学生生徒納付金収入	268 百万円		56.2%
寄付金収入	151 百万円	現物寄付含む	31.7%
補助金収入	9 百万円	御宿町	1.9%
上記以外の収入	49 百万円	補助活動収入（寄宿料）、入学検定料他	10.2%
帰属収入合計	477 百万円		100%
基本金組入額	△428 百万円		
消費収入の部 合計	49 百万円		
人件費	362 百万円	退職給与引当金含む	
教育研究経費	240 百万円	内減価償却費 121 百万円	
管理経費	98 百万円	内減価所脚費 11 百万円	
借入金利息他	5 百万円		
消費支出の部 合計	705 百万円		
当年度消費収入超過	△656 百万円		
前年度繰越消費収入超過額	344 百万円		
翌年度繰越消費収入超過額	△312 百万円		

（4）貸借対照表

科目	金額	備考
資産	2,887 百万円	
固定資産	2,572 百万円	
流動資産	315 百万円	
負債	591 百万円	
固定負債	319 百万円	
流動負債	272 百万円	
基本金	2,543 百万円	
1号	2,511 百万円	
4号	32 百万円	
消費収支差額	△312 百万円	（民間企業における自己資本）

(5) 財務指標

主な財務指標は以下のとおりであるが、開学2年度目であることの特徴が顕著に現れている。

負債比率は26.5% (24年度32.1%)と、自己資金構成比率は77.3% (24年度74.0%)とそれぞれ好転した。

教育研究経費比率は50.3% (24年度21.8%)と保健系単科大学全国平均(24年度26.5%)を大幅に上回った。

流動比率は116.0% (24年度173.0%)、前受金保有率は139.0% (24年度330.8%)、人件費比率は75.9% (24年度32.1%)とそれぞれ悪転した。

管理経費は20.7% (24年度9.9%)と大幅に上昇したが、その最大要因は寄付金の減に伴い帰属収入が大幅に減少したことによるものである。

なお、本学の総合財務安全性分析レーダーチャート(平成25年度)、財務比較表は別添資料のとおりである。

負債比率	総負債÷自己資金	26.5%
自己資金構成比率	自己資金÷総資産	77.3%
流動比率	流動資産÷流動負債	116.0%
固定長期適合率	固定資産÷(固定負債+自己資金)	100.9%
前受金保有比率	現金預金÷前受金	139.0%
減価償却率	減価償却累計額÷減価償却資産取得額	8.1%
人件費比率	人件費÷帰属収入	75.9%
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金	135.1%
教育研究比率	教育研究経費÷帰属収入	50.3%
管理経費比率	管理経費÷帰属収入	20.7%

自己資金＝基本金+消費収支差額

2) 総括(財政基盤の強化に向けて)

私立大学に対するいわゆる経常経費補助(国庫補助)は、完成翌年度からであり、また、完成年度までの間は施設・設備整備補助申請も基本的に対象外となっている。

一方、看護学部等の国家資格を目指す学部は実習等の占める割合も高く、学生数(定員・収容実員)に対する教員数が他学部等に比して相対的に高く、加えて実習設備の整備維持にも相当の費用を要することから、完成年度までのみならず完成年度以降も私立大学の主たる収入である学生生徒納付金収入及び経常経費補助金では賅いきれず、施設設備整備費及び経常経費の一部は寄付金等で賅わざるを得ない状況にある。

ちなみに平成 25 年度においては、学年進行（開学年目）に伴い経常経費が 24 年度 478 百万円から 706 百万円と 228 百万円の増（人件費 122 百万円、教育研究経費 77 百万円（うち減価償却費 28 百万円）、管理経費 25 百万円（うち減価償却費 6 百万円）、その他 4 百万円）となった。

一方、平成 25 年度においては諸般の事情から特別寄付金が予算計上額に対して 76 百万円の未達となった。

本学の特徴は多岐にわたる法人及び個人からの特別寄付金に支えられていることであり、このこと自体は欧米の著名な大学に準じた特徴であり好ましいもの言える一方、特別寄付金は法人及び個人からの浄財であり、その時々を経済情勢や個人個人の判断に左右されるものであり、予算計上額に対し未達になる場合を想定した経営が望まれる。

こうしたことから、人件費及び物件費の抑制に努めることが重要課題と言え、併せて学生満足度の向上に資する質の高い教育の提供の実現を通じて、質の高い志願者（合格者、入学者）の確保に努め、以て学生生徒納付金等の自己収入や科研費等の外部資金の確保に努めることが重要であり、経営陣（ボード）がこうした観点から経営（大学運営）に当たることが緊要となっている。

また特別寄付金は、施設設備整備費や経常経費のみならず新たに奨学金給付等を目途とするいわゆる 3 号基金の組成に取り組むことも重要な課題と認められる。

経費節減については光熱水費の節約（得に節電）や人件費の計画的抑制計画を模索するとともに学生アパートについては費用（一括借上げアパートに係る賃料並びに直営アパートに係る減価償却費及び維持費）が寄宿料収入で賄えることが緊要（平成 25 年度は 1 百万円の費用超過）であり、不測の空室による採算悪化を招かないよう規程等の見直しを行い平成 27 年度入居者から適用することが望ましい。

併せて、これまでの予算執行実績等を踏まえつつ平成 27 年度には完成年度を迎えることを踏まえ、平成 27 年度以降の予算編成に際しては従前以上に関係部署から予算要求書（必要事由・積算内訳・優先度等）を徴し予算編成（査定）に反映することが肝要となっている。

加えて完成翌年度からの経常経費等に対する国庫補助を見据えて、平成 26 年度決算を待って財務状況の経年比較を行い、事業報告書や財務に関する計算書等と併せて公表（一定額以上の特別寄付者に対する報告を含め）等を通じて、本学の財政基盤の安定に資していくとともに、より費用対効果に優れた予算執行（経費節減を含む）並びに事務の簡素合理化・改善を図ることにより、学生教職員及び寄付者、地域住民等のステークホルダーの期待に応えられるよういわゆる U S R（大学の社会的責任）の一助として行くことしたい。

財務比率比較表

亀田医療大学／実績分析

(単位：円)

区分		全国平均_H24 保健系学部	平成24年度	平成25年度				
学生生徒数			85	163				
専任教員数			15	28				
専任職員数			15	15				
役員数			0	0				
分類	項目	算式 (×100)	評価	%	金額	%	金額	%
財政の状況 関係比率	1	固定資産 構成比率	▼	75.1	2,507,463,556	75.5	2,571,845,811	89.1
					3,320,478,622		2,887,343,844	
	1-2	有形固定資産 構成比率	▼	64.7	2,505,001,664	75.4	2,568,400,315	89.0
					3,320,478,622		2,887,343,844	
	1-3	その他の固定資産 構成比率	△	10.5	2,461,892	0.1	3,445,496	0.1
					3,320,478,622		2,887,343,844	
	2	流動資産 構成比率	△	24.9	813,015,066	24.5	315,498,033	10.9
					3,320,478,622		2,887,343,844	
	3	固定負債 構成比率	▼	6.7	319,050,693	9.6	318,595,799	11.0
					3,320,478,622		2,887,343,844	
	4	流動負債 構成比率	▼	10.4	469,882,073	14.2	271,998,187	9.4
					3,320,478,622		2,887,343,844	
	5	内部留保 率	△	18.1	26,544,192	0.8	△ 271,650,457	-9.4
					3,320,478,622		2,887,343,844	
	6	運用資産 比率	△	1.3	178,828,632	0.4	△ 39,909,017	-0.1
					478,360,136		705,764,427	
	7	自己資金 構成比率	△	82.8	2,458,605,323	74.0	2,230,626,699	77.3
3,320,478,622					2,887,343,844			
8	消費収支差額 構成比率	△	-12.3	343,914,478	10.4	△ 312,130,423	-10.8	
				3,320,478,622		2,887,343,844		
9	固定比率	▼	90.7	2,507,463,556	102.0	2,571,845,811	115.3	
				2,458,605,323		2,230,626,699		
10	固定長期 適合率	▼	83.9	2,507,463,556	90.3	2,571,845,811	100.9	
				2,777,656,016		2,549,222,498		
11	流動比率	△	238.2	813,015,066	173.0	315,498,033	116.0	
				469,882,073		271,998,187		
12	総負債比率	▼	17.2	788,932,766	23.8	590,593,986	20.5	
				3,320,478,622		2,887,343,844		
13	負債比率	▼	20.7	788,932,766	32.1	590,593,986	26.5	
				2,458,605,323		2,230,626,699		
14	前受金保有率	△	286.7	476,573,239	330.8	301,157,890	139.0	
				144,047,000		216,603,000		
15	退職給与 引当預金率	△	65.7	0	0.0	0	0.0	
				8,237,440		15,138,440		
16	基本金比率	△	96.1	2,114,690,845	78.5	2,542,757,122	89.9	
				2,695,454,560		2,827,996,831		
17	減価償却比率	～	43.4	87,899,417	3.4	219,966,693	8.1	
				2,562,473,700		2,726,098,723		

財務比率比較表

亀田医療大学／実績分析

(単位：円)

区分			全国平均_H24 保健系学部	平成24年度		平成25年度			
学生生徒数				85	163				
専任教員数				15	28				
専任職員数				15	15				
役員数				0	0				
分類	項目	算式(×100)	評価	%	金額	%	金額	%	
経営の 状況 係 比率	1	人件費比率	人件費 帰属収	▼	56.1	239,846,785	32.1	362,066,983	75.9
						746,040,032		477,251,490	
	2	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	▼	71.2	239,846,785	156.9	362,066,983	135.1
						152,850,000		268,000,000	
	3	教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収	△	26.5	162,535,293	21.8	239,951,583	50.3
						746,040,032		477,251,490	
	4	管理経費比率	管理経費 帰属収	▼	11.1	73,999,391	9.9	98,565,536	20.7
						746,040,032		477,251,490	
	5	借入金等利率	借入金等利息 帰属収	▼	0.4	1,978,667	0.3	5,180,325	1.1
						746,040,032		477,251,490	
	6	帰属収支率	帰属収 - 消費支 帰属収	△	4.6	267,679,896	35.9	△ 228,512,937	-47.9
						746,040,032		477,251,490	
7	消費収支比率	消費支 消費収	▼	100.7	478,360,136	993.9	705,764,427	1434.9	
					48,127,949		49,185,213		
8	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収	～	78.9	152,850,000	20.5	268,000,000	56.2	
					746,040,032		477,251,490		
9	寄付金比率	寄付金 帰属収	△	1.8	236,049,731	31.6	151,476,830	31.7	
					746,040,032		477,251,490		
10	補助金比率	補助金 帰属収	△	11.8	332,770,993	44.6	8,899,582	1.9	
					746,040,032		477,251,490		
11	基本金組入率	基本金組入額 帰属収	△	10.9	697,912,083	93.5	428,066,277	89.7	
					746,040,032		477,251,490		
12	減価償却費比率	減価償却額 消費支	～	11.0	87,863,374	18.4	132,067,276	18.7	
					478,360,136		705,764,427		

総合財務安全性分析

平成 25年度
(単位：円)

亀田医療大学／実績分析

項 目	算式 (×100)	金額	比率	適正值
資金流動性				
① 流動比率	流動資産	315,498,033	116%	150～200%
	流動負債	271,998,187		
② 流動資産構成比率	流動資産	315,498,033	10.9%	20～25%
	総資産	2,887,343,844		
③ 資産運用利回り率	資産運用収入	0	0%	8～10%
	現金預金	301,157,890		
利用資金				
④ 公的資金導入率	長・短公的借入金の合計	0	0%	50～80%
	長・短借入金の合計	283,160,606		
⑤ 支払利息倍率	帰属収入	477,251,490	92.1倍	40～60倍
	借入金等利息	5,180,325		
内部留保				
⑥ 自己資金構成比率	自己資金	2,230,626,699	77.3%	60～80%
	総資金	2,887,343,844		
⑦ 基本金比率	基本金	2,542,757,122	89.9%	80～100%
	基本金要組入額	2,827,996,831		
成長性				
⑧ 総資産増加率	当年度資産合計	2,887,343,844	87%	110～120%
	前年度資産合計	3,320,478,622		
⑨ 自己資金増加率	当年度自己資金	2,230,626,699	90.7%	110～120%
	前年度自己資金	2,458,605,323		
⑩ 帰属収入増加率	当年度帰属収入	477,251,490	64%	110～120%
	前年度帰属収入	746,040,032		

13. 教職員名簿(平成26年3月31日現在)

1) 教員

教員グループ	職名	氏名	備考
	学長	クローズ 幸子	研究所長
基礎・専門基礎	教授	米林 喜男	図書館長
	准教授	足立 智孝	
	准教授	大石 昌也	
基礎看護学	教授	休波 茂子	
	講師	佐久間 夕美子	
	講師	渡邊 八重子	
	助教	有家 香	
	助教	鶴沢 淳子	
	助手	臼井 綾子	
成人・老年看護学	教授	小幡 光子	
	教授	深谷 智恵子	副学長
	准教授	新居 富士美	
	准教授	真野 響子	
	講師	小林 美奈子	
	講師	佐藤 真由美	
	助教	高橋 道明	
精神・在宅看護学	教授	新田 静江	
	講師	栗栖 千幸	
	助教	松丸 直美	
	助教	柚山 香世子	
ウィメンズヘル ス・小児看護学	教授	恵美須 文枝	
	教授	吉川 一枝	
	准教授	東 晴美	
	講師	久保 幸代	
	助教	金澤 貴子	
マクロ看護学	教授	宮本 眞巳	地域連携室長
	講師	工藤 由美	

2) 事務職員

所 属	職 名	氏 名	備 考
	事務局長	—————	欠員
管理部	部 長	堀 強	兼務
管理部 総務課	課 長	同上	兼務
	係 長	羽田 洋一	広報担当
		小原 美乃里	広報担当
		木内 千津子	人事担当
		橋本 昂一郎	総務担当
		平川 弘一	研究担当
		藤枝 悦子	秘書担当
管理部 学務課	課 長	堀 強	兼務
	係長代理	碓井 豊一	教務担当
		宮本 聖子	入試担当
		松村 広典	学生担当
		安田 紫音	教務担当
		立野 幸子	図書館司書
財務部	財務部長	堀 強	
財務部 財務課	財務課長	同上	兼務
	課長補佐	間宮 庄治	施設担当
	課長補佐	庄司 良幸	予算・執行・決算担当
		久古 博之	予算・執行・決算担当

学校法人 鉄蕉館

2013（平成 25）年度

亀田医療大学年報

平成 26 年 5 月 31 日発行

亀田医療大学（編集・発行）

〒296 - 0001 千葉県鴨川市横渚 462 番地

TEL : 04 - 7099 - 1211（代）

FAX : 04 - 7099 - 1327